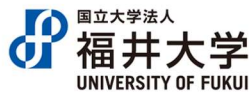




超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

令和3年度

活動成果報告書



ご挨拶

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ 事業推進代表者 金沢大学長
山崎 光悦



文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」は、がん対策基本法が施行された 2007 年にはじまった、がんの専門医療人材を養成する事業です。3 期継続した事業において、第 1 期は「がんの均てん化」をテーマに全国 18 拠点/95 大学が取り組みました。2011 年からの第 2 期は「教育改革、研究者育成、地域連携」をテーマに全国 15 拠点/100 大学が、がん医療の人材育成について取り組み、その実績が高く評価されました。

第 3 期がんプロ事業である「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」は 2017 年にはじまり、5 年間の事業期間を終え最終年度を迎えました。

第 3 期がんプロ事業では、これまでの富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学及び本学からなる枠組みに信州大学を加え、6 大学による「北信がんプロ」として活動を北陸・長野の北信地域に広げました。さらに 2018 年からは、オブザーバー参加として山梨大学を加えた 7 大学連携にてセミナーを開催するなど、5 年間の事業期間を通して、連携大学が一体となって新たな取り組みを積極的に推進してまいりました。北信地域が全国平均と比較し 15 年以上進んだ超少子高齢化社会であることから、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマに、戦略的にがん医療人の養成を進めてきたものです。

北信がんプロでは「がんプロ運営協議会」に地域すべてのがん診療連携拠点病院、医師会、行政が参加し、協力体制が整備されていること、患者会の方々にもご参画いただいて連携していること、6 大学の学長による学長連絡協議会を設置し、大学院生の受入れ状況など事業の進捗を管理していることが、がんプロ養成推進委員会でも高く評価されております。

事業期間の後半は、世界中を震撼させたコロナ禍に見舞われ、多大な影響を受けました。しかし、北信がんプロの連携大学が相互の強みを生かし、補完し合いながら工夫を重ね活動を展開できたことは、ひとえに皆様方のご尽力のお蔭であると、感謝申し上げます。

がん医療は着実に進歩してきてはいるものの、未だ根治に結び付く治療法の確立には至っておりません。新たな診断・治療法の確立には、がん研究、がん医療を担う人材の育成は欠くことのできないものです。事業期間終了後も、これまでの「北信がんプロ」を基盤とし、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとなりうるよう、連携大学が一丸となって日進月歩で深化するがん医療を支える人材の養成に取り組んでまいります。

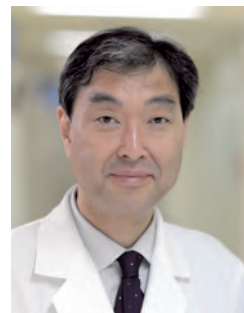


「がんゲノム医療を担うスペシャリストの養成」

北信がんプロ統括事業責任者
金沢大学附属病院がんセンター教授

やの せいじ
矢野 聖二

本学は、ゲノム医療をメインテーマとして掲げ、人材育成に取り組みました。本科生コースとして開設した医師・歯科医師対象、薬剤師対象、医学物理士対象の3コースには、4年間でそれぞれ26名、6名、8名と目標を上回る合計40名の履修生の受入れを達成いたしました。また、社会人向けのインテンプコースである医師・歯科医師対象の「がんゲノム生涯教育コース」、薬剤師対象の「がん個別化薬物療法実践薬剤師コース」、平成30年度に新設した多職種向けの「がんゲノム多職種連携入門コース」にもそれぞれ39名、12名、67名と目標を上回る合計118名の受講生を受入れ、スペシャリスト養成に向けたスタッフのスキルアップに貢献いたしました。一方で、北信がんプロ独自の試みである「地域がんデータベース」事業の成果として、障がいを持つがん患者の医療の実態を明らかにして英文誌に発表しました。また、北信がんプロ連携の枠組みを活用して福井大学のノウハウをご教示いただき、石川県において立ち遅れていた妊孕性温存ネットワークの構築を果たしました。来年度以降も、がんゲノム医療を担うスペシャリストの養成に加え、地域医療の充実のため北信がんプロから地域行政や地域医療機関に積極的に働きかけを行ってまいりたいと思います。



「がんゲノム医療の実践指導と認定遺伝カウンセラーの育成」

信州大学医学部血液・腫瘍内科学教授

こいずみ とものお
小泉 知展

本学の第三期北信がんプロでは、「ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース」に12名、「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース」に9名の本科生への受け入れ・指導を行い、県内はじめ全国に卒業生を輩出し、目標を上回る成果を挙げられています。2019年からは新規に「がん専門医療人養成インテンプコース」を設置し、予定数を上回る受講生に対して、がんゲノム医療の推進を目標に、県内の医療者への啓発、人材育成を行ってきました。また、北信がんプロ所属院生の交流会の開催や、「地域がんデータベース」事業で、小児・AYA世代のがんおよび肺がんの疫学情報を解析し報告しています。本年度以降も北信がんプロ事業の継続を通じて、北信地域のがん医療の向上のため、がん医療人の人材育成に努めていきます。

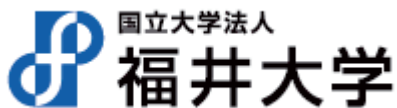


「北信がんプロの5年間」

富山大学附属病院臨床腫瘍部教授

はやし りゅうじ
林 龍二

2017年度、金沢大学の矢野聖二統括事業責任者を中心として福井・石川・富山・長野の4県の医療系大学が結束し、北信がんプロがスタートしました。当時、第3期がん対策推進基本計画で掲げられた「がんゲノム医療」、「希少がん・難治性がん」「小児がん、AYA世代のがん、高齢者のがん」の充実を目指し多くの事業計画が立てられました。その中で富山大学は高齢者がん対策を担当しました。さらに、国を挙げての目標である「がんゲノム医療」の教育・啓発活動にも全力で取り組み、人材育成を行い、その結果多くの臨床実績にもつながりました。学生の受け入れについては本科生予定数20人のところ33名、インテンシブコース予定数26人のところ33名といずれも予定を上回る受講生を獲得できました。今後はこの受講生が高度医療人の技術を身に付け、北信地区のがん診療に大きく貢献することを願ってやみません。富山大学を支えていただいた北信がんプロの関係者に深く感謝申し上げます。



「地域で活躍するがん医療人の養成」

福井大学がん診療推進センター長 腫瘍病態治療学

ひろの やすお
廣野 靖夫

本学は地域で専門的ながん治療から在宅医療までカバーできる、がん専門医の育成を課題として活動しております。2021年度は本科生コースとして開設している「地域がん専門医コース」に目標を大きく上回る10名の履修生を受け入れました。またインテンシブコースでは「在宅緩和医療コース」「在宅栄養管理コース」を開設しており、目標以上の多数の受講者に参加していただき、修了生も誕生しています。今年度も多くの研修会や公開講座を開催し、コース受講者を含めた多くの医療人の方や一般の方にご参加を頂きました。

福井県下の医療機関への最新のがん診療・治療に関する冊子の作成および配布、福井県のホームページへのがん教育用スライドの掲載、福井大学教育学部でのがん教育授業など、地域と一体となったがん医療人の育成ならびに啓発活動を行っております。



金沢医科大学
Kanazawa Medical University



「個別化医療を担えるがん診療専門医の育成」

金沢医科大学腫瘍内科学教授 **やすもと かずお**
安本 和生

本学では、がんゲノム医療に精通した、臓器横断的ゲノム診療を推進できる専門医の養成を目的とし、一人ひとりのがん遺伝子情報をはじめとした個々の臨床情報に基づいた最適な個別化医療を進めることのできるリーダーの育成を目指しています。

具体的には教育コースとして、本科生に「がん専門医リーダー養成コース」を、社会人向けのインテンシブコースには「がん集学的治療医養成コース」を設置し、両コースともに予定者数を上回る履修生を受け入れ、教育にあたってきました。

がん医療には、多職種の医療従事者がかかわります。遺伝性腫瘍を含む AYA 世代から高齢者世代に至るまで幅広い年齢層にも、地域医療にも対応ができる、がん患者の QOL やライフステージを重視した、統合的な質の高いがん診療で中心的な役割を担うことができる「がん医療人」の育成を進めてまいります。



石川県公立大学法人

石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY



「コロナ禍でのがん看護教育の工夫」

石川県立看護大学成人看護学領域教授 **まきの ともえ**
牧野 智恵

2021 年度も、COVID-19 新型コロナウイルスによる感染拡大の影響で、対面とリモートによるハイブリット開催を駆使して様々な教育や市民公開講座を行いました。

今年度は、本科生では「がんライフステージコース」に 2 名、インテンシブでは「がんライフケアコース」に 6 名の申し込みがありました。本科生の必須科目として、ライフステージ事例検討会があり、今年度は 992 名参加がありました。また、がん看護専門看護師になるためのフォローアップ教育として、CNS 関係者によるがん事例検討会を 2 回開催し、今年度は 40 名が参加した。

乳がんや子宮がん患者が術後生じるリンパ浮腫へのケアが重要であり、看護師への教育として、「臨床で行うリンパ浮腫ケア」を実施し、基礎編では 65 名、応用編には 4 名が参加しました。

また、今年度は福井大学と連携し、「がんサロンの活動を知らう コロナ禍でのがん患者支援の現状と課題」と題した市民公開講座を開催し、167 名の医療関係者と一般のかたの参加がありました。コロナ禍で海外研修が実施できませんが、英国のドロシー・ハウス・ホスピスと WEB でつなぎ、コロナ禍での緩和ケアの実践と課題について意見交換を行った。全国から約 110 名が参加した。

ご挨拶

目次

第Ⅰ部 事業の概要

1. 事業の構想	1
2. 達成目標・評価指標	3
3. 事業の実現可能性	3
4. 令和3年度 教育プログラムコース一覧	6
◇本科生コース	
◇インテンシブコース	

第Ⅱ部 実績

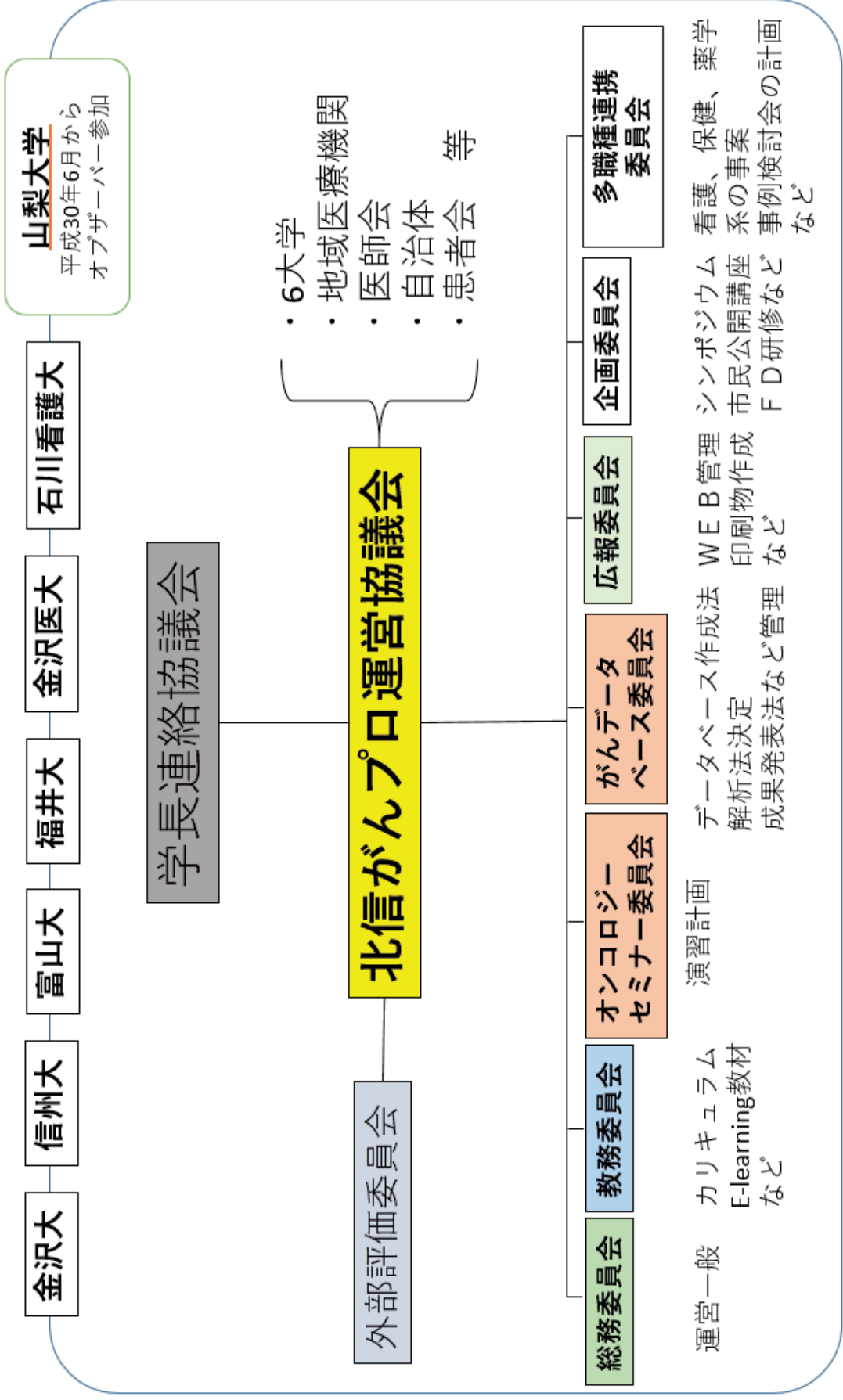
1. 養成実績	
◇令和3年度 教育コース受入実績	29
2. 事業実績	
◇令和3年度 北信がんプロ行事一覧	31
◇オンコロジーセミナー	37
◇ライフステージ事例検討会	39
◇FD・国際セミナー・国際シンポジウム	41
◇合同市民公開講座／市民公開講座	52
◇成果報告会 兼 学長連絡協議会・運営協議会	60
3. その他の実績	
◇広報活動	70

第Ⅲ部 外部評価

1. 外部評価報告	
◇外部評価手順	73
◇外部評価委員名簿	74
◇外部評価結果	75



北信がんプロ実施体制



第 I 部 事業の概要

1. 事業の構想

概要

本事業は、県の枠を超えた北信4県（石川県、富山県、福井県、長野県）での戦略的がん医療人育成システム構築を目指し、6大学（金沢大学、信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学）の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学修できる、教育プログラム・コースを構築。e-learningによる講義や、2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー、ライフステージ事例検討会等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

課題

北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。

対応策

北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、県の枠を超えた戦略的ながん医療人育成システム構築が必要である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取り組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。

これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学修することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（令和3年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取り組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

社会との関係

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者

や家族のための対策立案に取り組む。

キャリア教育・キャリア形成支援

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北信がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

2. 達成目標・評価指標

教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

本科生コース 平成30年4月受入れ開始

教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 先進的個別化医療	医師等	5	5	5	5	20
個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	2	7
高度化医学物理士	物理士	2	2	2	2	8
信州大 ゲノムがん治療医	医師	2	2	2	2	8
遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	1	4
富山大 高齢がん患者対策	医師	4	4	4	4	16
個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	1	4
福井大 地域がん専門医	医師	2	2	2	2	8
金沢医大 がん専門医リーダー	医師	2	2	2	2	8
石川看護大 ライフステージ	看護師	2	2	2	2	8
合計		22	23	23	23	91

インテンシブコース 平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）

教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大 がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	6	26
個別化薬物実践	薬剤師	0	1	2	2	2	7
富山大 高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10
高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9
在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大 在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	22	78
在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大 がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大 がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22
合計		8	55	67	67	67	264

シンポジウム等（5年間）

名称	参加校数	開催数	参加者数
多職種連携 北信オンコロジーセミナー	6	18	6,500
セミナー ライフステージ事例検討会	6	30	4,500
FD 海外FD研修	6	1回/校	30
FD講習会	6	3	90
人材交流 国際シンポジウム	6	2	400
市民公開講座	6	5	1,000
地域医療機関での診療	6	3,000	3,000
実態把握 北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ		

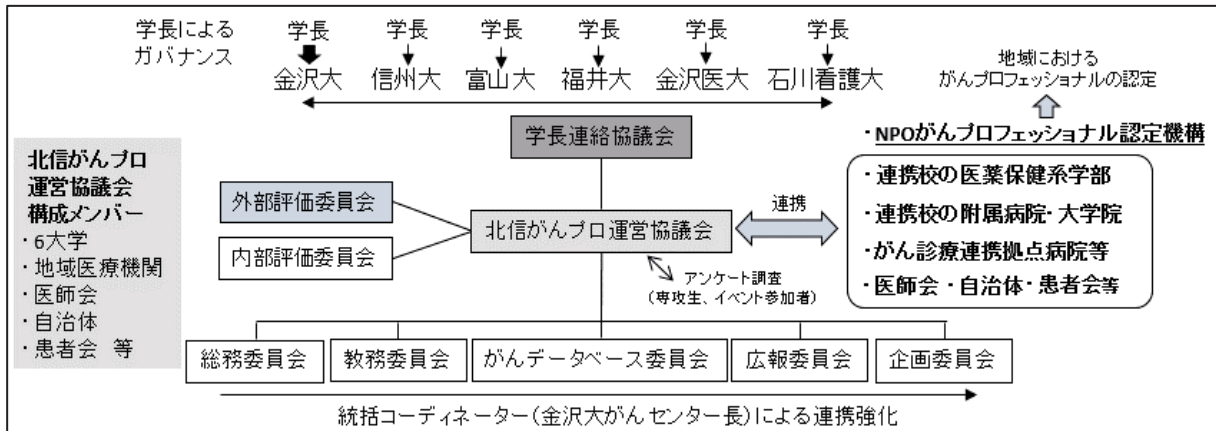
3. 事業の実現可能性

（1）事業の運営体制

① 事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる学長連絡協議会を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による運営協議会（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに6大学

による総務委員会（ステアリングコミッティー）、教務委員会、がんデータベース委員会（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報委員会、企画委員会等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が統括コーディネーターとして6大学の連携強化・調整を行う。



② 事業の評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び外部評価委員会（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して事業計画を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、同様に事業内容改善を図る。

③ 事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした相互補完的教育プログラムのコースを設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネージメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、円滑なデータ管理・運用が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所によりがんゲノム等の基礎知識教育を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中のがん遺伝子解析事業（SCRUM-JAPAN）と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び北信地域の先進的医療の推進を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが海外FD研修（各大学が1回海外外向する）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に教育成果を還元する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による地域がん医療レベルの向上に貢献する。また、合同市民公開講座開催で予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れることで、患者目線の医療立案に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血

液がんシンポジウム開催)し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「(未来医療人材養成プログラム(金沢大・第三の道)、課題解決型高度医療人材養成プログラム(金沢大・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン、信州大・次世代スーパードクターの育成)」とも合同シンポジウム等で人材交流・相互のプロジェクト内容の改善を図る。

全国規模の e-learning システムに参画し、新規教材作成に協力して本事業の情報発信を行う一方で、必須科目教材の提供を受ける。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会(日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等)や市民公開講座、ホームページ、マスメディア(TV、新聞、雑誌等)等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

令和3年度 教育プログラム・コース

■本科生コース

	教育コース
金沢大学	◆先端的個別化医療コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】
	◆がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】
	◆個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース 【医薬保健学総合研究科保健学専攻】
信州大学	◆ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース 【総合医理工学研究科医学系専攻・生命医工学専攻】
	◆がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース 【医学系研究科医科学専攻】
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻】
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 高度薬剤師養成コース 【医学薬学教育部薬学専攻】
福井大学	◆地域がん専門医養成コース 【医学系研究科統合先進医学専攻】
金沢医科大学	◆がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】
石川看護大学	◆がんライフステージコース 【看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】

■インテンシブコース

	教育コース	
金沢大学	◆がんゲノム医療生涯教育コース 【医薬保健学総合研究科医学専攻】	
	◆がん個別化薬物療法実践薬剤師コース 【医薬保健学総合研究科薬学専攻】	
	◆がんゲノム多職種連携入門コース 【医薬保健学総合研究科】	
信州大学	◆がん専門医療人養成インテンシブコース 【医学系研究科医科学専攻】	令和元年度開設
富山大学	◆高齢がん患者対策専門コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻】	
	◆高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 専門的薬剤師養成コース 【医学薬学教育部薬学専攻】	
	◆在宅がん緩和リハビリテーションコース 【医学薬学教育(博士前期課程)医学領域看護学専攻成人看護学分野】	
福井大学	◆在宅栄養管理コース 【医学部】	
	◆在宅緩和医療コース 【医学部】	
金沢医科大学	◆がん集学的治療医養成コース 【医学研究科生命医科学専攻】	
石川看護大学	◆がんライフケアコース 【看護学研究科(博士前期課程) 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野】	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目のうち、選択必修科目5単位を含む10単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端の基礎を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔選択必修の基礎科目2単位、実習、演習科目1単位を含む〕を修得すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。スクーリング、TV会議によるセミナー、演習等の中から選択して履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目（基礎科目）>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）</p> <p><選択必修科目（実習、演習科目）>先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、がんリスクマネジメント実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか4科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の壁を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を実践できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）を必修とすること、及びその他、北信がんプロフェッショナル授業科目2単位以上を履修することとし、合計12単位以上の修得が必要。また、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）、機能画像解析学特別研究もしくは量子診療技術学特別研究（6単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院総合医理工学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	総合医理工学研究科医学系専攻及び生命医工学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実験を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>医学系専攻または生命医工学専攻の修了要件計32単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>各専攻の対象専門科目を履修し、コース必修のe-learning科目の履修、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>医学系専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医学統計・疫学特論（2単位）、生涯保健学研究法特論（2単位）</p> <p><分野共通科目>医科学研究遂行特論（2単位）ほか6科目</p> <p><専門科目>論文演習（2単位）、特別研究（10単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>生命医工学専攻</p> <p><研究科共通科目>先鋭領域融合研究群最先端研究特講（2単位）</p> <p><専攻共通科目>社会医工学特論（2単位）、イノベーションセミナー（2単位）</p> <p><分野共通科目>特別演習Ⅰ（2単位）、特別演習Ⅱ（2単位）</p> <p><専門科目>特別演習Ⅲ（4単位）、生命倫理・研究倫理特論（2単位）、医科学研究遂行特論（2単位）、ほかがん・ゲノム関係科目</p> <p>両専攻共通</p> <p><コース必修科目>がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〔全国共通e-learning科目〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1)先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2)小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3)附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4)附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5)このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手がん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース						
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目</p> <p><選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位）</p> <p><コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目</p> <p><コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目</p> <p>全国共通のe-learning科目〔がんゲノム医療（1単位）、小児・AYA・希少がん（1単位）、ライフステージに応じたがん医療（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。						
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を旨とする。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻・東西統合医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学薬学教育部大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目26単位以上、選択科目8単位以上合計34単位以上を履修し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>臨床薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、医学特論（4単位）、医学演習（4単位）、医学特別研究（14単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢者がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢者がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢者がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	学部学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース						
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<p>がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世代同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかがかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。</p>						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>所属専攻の修了要件単位数（30単位）に加え、北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目5単位、選択単位1単位以上）を修得し、合計36単位の修得及び、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p><履修用法>授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、腫瘍放射線医学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、分子生物学入門（各1単位）、臨床疫学、最先端医療、AYA世代診療、腫瘍学（各2単位）、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論（各1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。</p>						
指導体制	<p>富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年制薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。</p>						
受入開始時期	平成30年4月または10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成、本学の特色を活かした緩和ケアや在宅医療にも精通する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>がんプロフェッショナル授業科目の必須科目5単位を含む10単位以上を取得すること。がんに関する研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。（e-Learning科目の単位認定は、e-Learning科目+オンコロジーセミナー（演習）出席にて、1単位とする。）</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）</p> <p><選択科目>がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん患者看護論（1単位）、がん患者看護論Ⅱ（1単位）、がん外科学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、腫瘍病理学演習（1単位）、医学物理学特論（1単位）、コンサルテーション論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA・希少がん特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本学大学院の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目に加え北信がんプロ養成プログラムの科目を履修することにより、地域におけるがん診療力の高度な知識を修得できる。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師，地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数（30単位）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目10単位を含む13単位を修得をもって大学院修了単位の11単位に読み替えし、独自に設立されるNPO法人の認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p>主として専攻する科目の講義・演習・実験実習（各4単位、計12単位）、特別研究（6単位）、医の倫理または生命倫理学（各1単位）のほか、以下に掲げる専門医養成コースの授業科目13単位以上</p> <p><必修科目>がんゲノム医療学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、臨床腫瘍学特論（1単位）、がん外科学特論（1単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、臨床統計学演習（1単位）、分子生物学入門（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）ほか6科目</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学病院再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	がん看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、住宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」（仮）の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会への参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）						
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。						
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。						
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又はがんライフステージ事例検討会への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある						
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科						
教育プログラム・コース名	がんゲノム多職種連携入門コース（インテンシブ）						
対象者	北信4県(石川県、長野県、富山県、福井県)在住の、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療等における多職種連携の基本として、最近のがん治療等の最新の知識を持ち、遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、医師をはじめとする他の医療職と連携して実地医療における個別化医療を実践する基本的な能力を持つ医療職（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等）を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目2単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会又は北信がんプロ主催の講演会への参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又はがんライフステージ事例検討会又は北信がんプロ主催の講演会への参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、多職種連携演習（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を概括できる教育を通して、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる基本的能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はセミナーで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医療職（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ソーシャルワーカー等）は、多職種と連携できるがんゲノム診療の一員となる。コース修了者は、更に各医療職の専門コースを学び、リーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成30年9月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師・理学療法士・作業療法士・栄養士・ソーシャルワーカー等	0	10	10	10	10	40
	計	0	10	10	10	10	40

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学						
教育プログラム・コース名	がん専門医療人養成インテンシブコース						
対象者	信州大学附属病院及び長野県内の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者。						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者が、1.ゲノム医療 2.小児・AYAがん3. ライフステージ癌といった新たな社会ニーズとして求められている癌専門領域の知識を持つ事を目的とする。大学院教育水準で作成されたe-learning教育コンテンツを使って学習する事で、個々の専門領域に加えて、がんゲノム医療、AYA世代のがん、緩和・支持医療などがん診療をとりまく課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・e-learning必修科目1単位以上の修得（e-learning科目の各項目は視聴講、ミニテスト・アンケートを行う事でその項目の学習完了となる。） ・本拠点構成大学が主催するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への1回以上の参加 						
履修科目等	<p><e-learning必修科目> 全国がんプロe-learningクラウドにおける、下記3科目の中から1単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療（8項目：1単位） ・小児・AYA・希少がん（9項目：1単位） ・ライフステージに応じたがん医療（8項目：1単位） <p><がんプロ主催のシンポジウム・セミナー等> 本拠点構成大学が主催するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への1回以上の参加</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>基本的知識については、e-learningを活用し教育を行う。 そのうえで、がんゲノム医療では、On the Job Trainingを重視し、知識だけでなく実際の医療現場で応用できる人材を育成する。 小児・AYA世代がんでは、治療前の妊孕性温存、治療後の長期間に渡るフォローアップなどの現代社会が抱えている諸問題に焦点を当てたセミナー・シンポジウムを毎年開催し理解を深める。 ライフステージがん医療ではがん患者の治療成功のための支持療法、終末期がん治療・緩和ケアの実臨床の現場で活躍できる医療人の育成を図る。</p>						
指導体制	e-learningを活用し、空間的・時間的な制約なくいつでも一貫した最新かつ高度な情報にアクセスできる状況を提供する。がんプロ主催のシンポジウム、セミナーの開催情報を提供し参加を促す。多職種が総合的なカリキュラムを構成し指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	ゲノム、小児・AYA・希少がんの情報に基づいた効果的な治療法の選択や、ライフステージに応じたがん医療を熟知し倫理的・心理的諸問題に対応できる、地域のがん臨床診療拠点病院の中核となる人材を育成する。						
受入開始時期	令和元年7月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	計
	医療従事者			5	10	10	25
	計	0	0	5	10	10	25

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際ががん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあつた診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>指定する北信がんプロフェッショナル授業科目の選択科目の中から、3単位以上の修得及び北信がんプロオンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用した北信がんプロオンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学習を行う。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(がんライフステージ事例検討会に5回出席で1単位)</p> <p>上記選択科目の他に下記科目も開講しています。</p> <p>腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、腫瘍病理学特論(1単位)、臨床腫瘍学特論(1単位)、がん外科学特論(1単位)、分子腫瘍学特論(1単位)、分子生物学入門(1単位)、臨床統計学特論(1単位)</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）						
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。						
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）						
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位以上（必修科目4単位、選択科目2単位以上）の修得。</p> <p><履修方法>授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p> <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習（1単位）、地域包括医療でのがん治療演習（0.5単位）、ライフステージ事例検討演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、腫瘍病理学特論（1単位）、分子生物学入門（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。						
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究室 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法に従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようになる。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	病院・薬局薬剤師及び薬系大学教員	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部（博士前期課程） 医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目：在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、 「公開講座」又は「実技演習」（1単位）、選択科目の中から1科目（1単位） 以上の合計3単位以上修得。</p> <p><履修方法></p> <p>【必修科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）：北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会に5回以上参加により単位認定。 「公開講座」又は「実技演習」（1単位）：富山大学にて開催される、公開講座あるいは、実技演習に1回以上参加することにより単位認定 <p>【選択科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。 <p><単位認定>e-learning各科目の単位認定は、e-learning科目の合格とオンコロジーセミナーの出席により所定の単位を認定する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）、「公開講座」又は「実技演習」（1単位）</p> <p><選択科目>e-learning「がん緩和医療学特論」「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「分子腫瘍学特論」「臨床栄養学特論」「分子生物学入門」「在宅緩和医療特論」「がん患者看護論」「コンサルテーション論」より1単位以上修得。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北信4県におけるTV会議システムを利用したがんライフステージ事例検討会や富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換を行うとともに、e-learning科目・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北信4県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。 講義科目は、e-learningにより受講する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNP0がんプロフェSSIONAL認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	/	1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養バスの効率的な利用も必要である。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設における、NST専門療法師資格取得のための20時間以上の研修は、NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または、指定する研修等へ参加すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>在宅栄養特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修 ・（医師）日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。 ・（医師以外のスタッフ）日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナー受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。全ての慢性疾患で在宅医療での栄養指標を高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフが同じ教育を受けることで、在宅栄養管理バスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	2	2	2	2	8
	医師以外	/	10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位の修得。かつ、がんプロが実施するオンコロジーセミナーに2回以上参加または国の定める緩和ケア研修会を受講すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>がん緩和医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんプロが実施するオンコロジーセミナー2回以上の参加 ・国の定める緩和ケア研修会の受講。 						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	/	4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ	/	20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及び北信オンコロジーセミナーへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用した北信オンコロジーセミナー又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム医療特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、ライフステージに応じたがん医療特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程） 看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

第Ⅱ部 実績

令和3年度 教育コース受入実績

■ 本科生コース

本科生コース（平成30年4月受入開始）

令和4年3月14日現在

	コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
			H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計
金沢大学	先端的個別化医療コース	医師	0	5	5	5	5	20	0	9	5	5	7	26
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師	0	1	2	2	7	0	1	2	2	2	1	6
	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	医学物理士	0	2	2	2	8	0	3	4	1	0	8	
信州大学	ゲノム医療に精通したがん治療医療育成コース	医師	0	2	2	2	8	0	2	2	3	5	12	
	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	遺伝カウンセラー	0	1	1	1	4	0	1	3	3	2	9	
富山大学	高齢がん患者対策専門コース	医師	0	4	4	4	16	0	6	9	9	6	30	
	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	1	1	1	4	0	1	2	0	0	3	
福井大学	地域がん専門医養成コース	医師	0	2	2	2	8	0	4	5	2	10	21	
	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	医師	0	2	2	2	8	0	2	2	2	4	10	
石川県立看護大学	がんライフステージコース	看護師	0	2	2	2	8	0	1	3	2	1	7	
		合計	0	22	23	23	91	0	30	37	29	36	132	

■インテンシブコース

インテンシブコース 平成29年10月受入開始（一部30年4月受入開始）

令和4年3月14日現在

	コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
			H29	H30	R01	R02	R03	合計	H29	H30	R01	R02	R03	合計
金沢大学	がんゲノム医療生涯教育コース	医師	2	6	6	6	6	26	2	12	11	8	6	39
	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	薬剤師	0	1	3	4	4	12	0	4	3	2	3	12
	がんゲノム多職種連携入門コース	多職種	-	10	10	10	10	40	-	32	14	11	10	67
信州大学	がん専門医療人養成インテンシブコース	多職種	-	-	5	10	10	25	-	-	18	3	14	35
	高齢がん患者対策専門コース	医師	2	2	2	2	10	10	2	2	2	2	2	10
富山大学	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	薬剤師	1	2	2	2	9	9	2	5	2	2	1	12
	在宅がん緩和リハビリテーションコース	看護師	0	1	2	2	7	7	0	6	3	2	0	11
福井大学	在宅栄養管理コース	多職種	0	12	22	22	78	78	0	23	23	26	22	94
	在宅緩和医療コース	多職種	0	24	24	24	96	96	0	27	24	33	25	109
金沢医科大学	がん集学的治療医養成コース	医師	1	2	2	2	9	9	1	2	2	3	2	10
石川県立看護大学	がんライフケアコース	多職種	2	5	5	5	22	22	3	10	9	6	6	34
	合計		8	65	83	89	334	334	10	123	111	98	91	433

令和3年度 北信がんプロ行事一覧

主催	月	日	行事	行事
金沢大学	7	1	FD	第49回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「胃癌治療の現状：闘うと支える」 福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長 廣野靖夫先生ほか
	7	21	がんサロン	がんサロンハーモニー 「コロナ過におけるセルフケア」
	8	29	FD	第23回石川県がん診療連携協議会 県民公開講座 小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法を学ぼう 「石川県における妊孕性温存ネットワークと治療費助成について」 石川県健康福祉部健康推進課 次長兼課長 相川広一 ほか
	9	15	がんサロン	がんサロンハーモニー 「コロナ過における人とのつながりの再確認」
	9	22	オンコロジー セミナー	東北がんプロ・北信がんプロ合同オンコロジーセミナー 東北大学と合同開催 東北大学主催によるエキスパートパネル 東北大学医学系研究科地域がん医療推進センター准教授城田英和 ほか
	10	27	FD	第50回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「がんになっても妊娠・出産できますか？」 ～福井県におけるがん生殖医療の実際～ 福井大学医学部産科婦人科 講師 折坂 誠先生 ほか
	11	3	FD	北信がんプロ 交流セミナー（6大学） 基礎研究・臨床研究・緩和研究 学生と教員・学生間との交流。
	11	17	がんサロン	がんサロンハーモニー 「症状にあわせた役立つレシピ」
	11	26	FD	国際シンポジウム International Symposium on Tumor Biology in Kanazawa2021
	2	16	がんサロン	がんサロンハーモニー 「自宅で出来る運動療法」
	3	17	FD	第51回石川県がん診療連携拠点病院研修会 「サイバーナイフによる定位放射線治療と全身的作用」 医療法人社団藤聖会 五福脳神経外科 富山サイバーナイフセンター長 水野英一 ほか

主催	月	日	行事	行事
信州大学	5	20	オンコロジー セミナー	第15回オンコロジーセミナー 特別講演「緩和ケア最近のトピックス～早期介入からサバイバーまで～」 信州大学医学部附属病院信州がんセンター緩和部門 教授 間宮 敬子 先生 他
	10	14	市民公開講座	緩和ケアセンター市民公開講座 「グリーンケア/緩和ケアを地域に根づかせる取り組み」
	11	3	FD	緩和ケアセンター主催 医療者のための緩和ケア講演会 「看護専門職として、目指し続けたいこと」
	11	21	FD	信州がんセンター主催 「がんゲノム看護セミナーin 信州 2021」

	12	5	FD	信州大学医学部附属病院緩和ケアセミナー2021①
	1	30	FD	信州大学医学部附属病院緩和ケアセミナー2021②
	2	23	FD	医療者のための長野県緩和ケアアドバンス研修会 2021
	3	17	FD	都道府県がん診療連携拠点病院医療者研修会 「長野県のがんゲノム医療のさらなる普及をめざして」～もっと知りたいがんゲノム医療～

主催	月	日	行事	行事
富山大学	7	11	市民公開講座	地域・家族で考える乳がん (富山大学附属病院)
	7	30	講演会	小児・AYA 世代のがん患者を支援する医療従事者向け講演会 (富山大学附属病院)
	8	21	講演会	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる 専門的薬剤師養成コース 薬学系講演会
	9	12	市民公開講座	総合がんセンター市民公開講座～次の世代のがん医療～ (富山大学附属病院)
	9	16	CB	第1回富山がん看護事例検討会
	11	12	CB	第2回富山がん看護事例検討会
	11	18	オンコロジーセミナー	北信がんプロ第17回オンコロジーセミナー 症例検討1: 富山大学附属病院 第一内科 診療准教授 猪又峰彦先生 症例検討2: 金沢大学附属病院 血液内科 医員 東大貴先生 特別講演: 「転移性腎癌に対する複合免疫療法の現状と課題」 富山大学附属病院 泌尿器科 診療科長・教授 北村 寛 先生
	12	5	合同市民公開講座	令和3年度 北信がんプロ合同市民公開講座 「北信地域におけるがん診療の未来」
	1	14	CB	第3回富山がん看護事例検討会
	3	18	CB	第4回富山がん看護事例検討会 (予定)

主催	月	日	行事	行事
福井大学	4		CB	緩和ケアチームカンファレンス (4月7日、14日、21日、28日 開催)
	5		CB	緩和ケアチームカンファレンス (5月12日、19日、26日 開催)
	6		CB	緩和ケアチームカンファレンス (6月2日、9日、16日、23日、30日 開催)
	7		CB	緩和ケアチームカンファレンス (7月7日、14日、21日、28日 開催)
	8		CB	緩和ケアチームカンファレンス (8月4日、11日、18日、25日 開催)
	9		CB	緩和ケアチームカンファレンス (9月1日、8日、15日、22日、29日開催)
	10		CB	緩和ケアチームカンファレンス (10月6日、13日、20日、27日 開催)

10	6	FD	看護セミナー「社会に求められるがん看護」 講師：公立小松大学 保健医療学部 看護学科 准教授 佐藤 大介 先生 ハイブリッド開催
10	30	市民公開講座	福井大学公開講座 今だからこそ、考えてみよう。いのちのこと ～苦しい時、つらい時、あなたはどうか乗り越えますか？～ オンライン開催
11		CB	緩和ケアチームカンファレンス (11月10日、17日、24日 開催)
11	23	市民公開講座	県民公開シンポジウム「がん診療最前線」 テーマ：多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう ハイブリッド開催
12		CB	緩和ケアチームカンファレンス (12月1日、8日、15日、22日 開催)
1		CB	緩和ケアチームカンファレンス (1月5日、12日、19日、26日開催)
2		CB	緩和ケアチームカンファレンス (2月2日、9日、16日 開催)
2	18	FD	がん医療スキルアップセミナー 「新しい流れをがん医療の現場に活かそう」 ハイブリッド開催
3		CB	緩和ケアチームカンファレンス (3月2日、9日、16日、23日、30日 開催)

主催	月	日	行事	行事
金沢医科大学	4	20	その他	本科生3名受け入れ
	4	26	FD	第1回消化器外科治療学セミナー・北信がんプロFD講演会 「難治性固形がんに対するオンコリティック・アデノウイルス (Oncolytic adenovirus) — その開発と今後の展望 —」 ミネソタ大学 外科 外科研究担当副統括 教授/基礎・トランスレーショナル研究部 部長 山本 正人 先生
	5	11	その他	本科生1名受け入れ
	6	16	その他	インテンシブコース生2名受け入れ
	9	3	FD	第5回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会 「呼吸器外科医ができる臨床と研究とは？」 名古屋大学大学院医学系研究科病態外科学講座 (呼吸器外科学分野) 教授 芳川 豊史 先生
	9	30	その他	2期がんプロ履修生1名修了
	11	6	市民公開講座	テーマ：がんを知り、がんに備える。— 女性のがんの治療最前線 — 「あなたの乳房は大丈夫ですか — 乳がんから命を守るために —」 金沢医科大学乳腺・内分泌外科 准教授 井口 雅史 先生 「意外に身近な子宮と卵巣のがん。 どうやって見つける？そして予防する？」

主催	月	日	行事	行事
金沢医科大学				金沢医科大学産科婦人科学 臨床教授 高倉 正博 先生 「ディスカッション：がんを知り、がん備える。」
	11	18	FD	病態診断医学セミナー・北信がんプロ教育セミナー 「Granulomatosis with polyangiitis の肺病理 ～Overview と病理組織診断～」 東海大学医学部基盤診療学系 病理診断学 准教授 畑中 一仁 先生
	11	25	FD	腫瘍内科学セミナー・北信がんプロ FD 講演会 「難治性スキルス胃がんの病態と治療」 大阪市立大学大学院医学研究科癌分子病態制御学腫瘍外科学 准教授 八代 正和 先生
	12	17	その他	令和4年度 がんプロ活動に係る学内会議
	1	21	FD	第40回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会・ 金沢女性研究者フォーラム 「脂肪肝で生じる細胞死の様式変化の分子スイッチ」 金沢大学 新学術創生研究機構 准教授 稲葉 有香 先生 「消化器がんのポリクローナル転移機構」 金沢大学 がん進展制御研究所 准教授 大島 浩子 先生 「がん微小環境における細胞老化の機能」 公益財団法人がん研究会がん研究所 細胞老化プロジェクト プロジェクトリーダー高橋 暁子 先生
	1	25	FD	第2回消化器外科治療学セミナー・北信がんプロFD講演会 「肝細胞癌治療の最前線： 改訂診療ガイドラインから最新の薬物療法のエビデンスまで」 金沢大学 先進予防医学研究センター/金沢大学 附属病院消化器内科 准教授 山下 竜也先生
	2	4	FD	第41回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「病理のデジタル化と人工知能の応用～組織型推定から予後予測まで～」 公益財団法人がん研究会がん研究所 病理部 研究員 高松 学 先生
	2	17	その他	第19回日本臨床腫瘍学会学術集会 浦本 秀隆 教授 発表 演題：Multi-institutional survey of thymic carcinoma patients in Hokushin region (胸腺癌に対する北信4県における多施設調査) ※北信がんプロがんデータベース事業研究成果発表
	2	19	その他	第36回日本がん看護学会学術集会 北村 佳子 講師参加
	3	2-4	その他	第94回日本胃癌学会総会 安本 和生 特任教授参加
	3	17-19	その他	第21回日本再生医療学会総会 下平 滋隆 教授参加
	3		FD	【中止・延期】がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション 技術研修会 (金沢医科大学)
	3	24	オンコロジー セミナー	北信がんプロ第18回オンコロジーセミナー 症例検討1：金沢医科大学病院 産科婦人科 医員 佐伯 吉彦 先生 症例検討2：福井大学附属病院 泌尿器科助教 多賀 峰克 先生 特別講演：「ゲノムバイオマーカーに基づくがん個別化治療の最前線 (Cutting Edge of Precision Cancer Medicine based on genomic biomarker)」 慶應義塾大学医部腫瘍センターゲノム医療ユニット長 教授 西原 広史 先生

主催	月	日	行事	行事
	3	25	その他	2期がんプロ履修生1名修了
	3	25	その他	インテンシブコース生1名修了

主催	月	日	行事	行事
石川県看護大学	6	1	CB	第1回ライフステージ事例検討会 事例：「悔いのない最期を迎えるために」 ミニレクチャー：「ACPにおける relational autonomy を考える」
	7	6	CB	第2回ライフステージ事例検討会 事例：「抗がん剤と医療用麻薬を内服している患者の自己効力感に着目したセルフマネジメント力を高める支援」 ミニレクチャー：「セルフマネジメント」
	7	17	FD	第27回石川緩和医療研究会 演題：「コロナ禍の状況における緩和ケア実践の現状とその対策」 演者：神戸大学医学部附属病院緩和支援治療科 木澤 義之先生
	7	17	看護CB	第1回CNS関係者による看護事例検討会 発表者：訪問看護ナースソフィアにいかわ 時山 麻美さん
	8	3	CB	第3回ライフステージ事例検討会 事例：「抗がん剤治療の継続と中止の間を揺れ動く患者の関わりについて」 ミニレクチャー：「意思決定支援と行動経済学」
	9	7	看護CB	第2回CNS関係者による看護事例検討会 発表者：富山赤十字病院 印幡 香さん
	9	23	FD	看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア～基礎編～」 講師：石川県済生会金沢病院 高地 弥里さん
	10	5	CB	第4回ライフステージ事例検討会 事例：「化学療法目的で短期入院を繰り返す患者の意思決定支援」 ミニレクチャー：「本邦の意思決定支援に関するガイドラインと臨床への応用 -自部署における取り組み」
	10	9	FD	看護実践セミナー 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア～アドバンス編～」 講師：石川県済生会金沢病院 高地 弥里さん 訪問看護ナースソフィアにいかわ 時山 麻美さん
	11	2	CB	第5回ライフステージ事例検討会 事例：「化学療法による脱毛への不安が強い患者の支援」 ミニレクチャー：「化学療法を受ける患者の脱毛による外見変化が及ぼす影響とアピアランスケア」
	11	22	市民公開講座	「がんサロンの活動を知ろう」 講演者：福井県済生会病院 車屋 知美さん 富山県がん総合相談支援センター 尾川 洋子さん 元ちゃんハウス 西村 詠子さん つどい場はなうめ 木村 美代さん マザーズ東京 秋山 正子さん
	12	7	CB	第6回ライフステージ事例検討会 事例：「壮年期にある肺がん患者の看護」

			ミニレクチャー：「がん患者の倫理的課題と意思決定を支えるケア」
2	1	CB	第7回ライフステージ事例検討会 事例：「治療中に拳児希望があった患者との関わり」 ミニレクチャー：「がんになって子供をもつこと」
3	1	CB	第8回ライフステージ事例検討会 事例：「認知症のある高齢がん患者が受けたい治療と望む暮らし」 ミニレクチャー：「認知症のある高齢がん患者を支えるためのヒント」
3	10	FD	英国ドロシーハウスとのリモート研修 「英国緩和ケアWEB研修」 講演者：ドロシーハウス カレン・トゥッジさん ドロシーハウス アン・モンターギュさん

	月	日	行事	行事
その他	4	28	その他	令和2年度 実績報告書提出
	5	25	委員会	第1回 総務委員会
	6	30	委員会	第1回 データベース委員会
	8	24	委員会	第2回 総務委員会
	7	13	CB	第8回 小児血液・がん症例検討会 in 中部
	10	20	委員会	第2回 データベース委員会
	10	23	新聞広告 金沢医科大学	北國新聞 11月6日 市民公開講座 広告
	11	2	新聞掲載 金沢医科大学	北國新聞 11月6日 市民公開講座 開催告知記事
	11	7	新聞掲載 金沢医科大学	北國新聞 11月6日開催 市民公開講座「がんを知り、がん備える」報告記事
	12	6	新聞掲載 富山大学	北國新聞/富山新聞 12月5日開催 合同市民公開講座 「北信地域におけるがん診療の未来」報告記事
	12	19	新聞掲載 福井大学	福井新聞 11月23日開催 県民公開シンポジウム 採録記事
	1	31	新聞掲載 富山大学	北國新聞 令和3年度 北信がんプロ合同市民公開講座 「北信地域におけるがん診療の未来」採録記事
	2	8	委員会	第3回 総務委員会
	2	22	報告会	令和3年度北信がんプロ成果報告会 兼 学長連絡協議会・運営協議会
	2	23	新聞掲載	北國新聞 令和3年度北信がんプロ成果報告会 兼 学長連絡協議会・運営協議会 報告記事
3	18-25		外部評価委員会（書面審査）	

令和3年度 オンコロジーセミナー 全4回

No.	内容
<p>第15回</p>	<p>北信がんプロ 第15回オンコロジーセミナー</p> <p>日時：令和3年5月20日(木) 18:00~20:00 場所：各大学、各施設テレビ会議室、Web視聴</p> <p>症例検討1：「稀な transdifferentiation をきたしたマントル細胞リンパ腫」 発表者：山梨大学人体病理学 准教授 大石直輝 先生</p> <p>症例検討2：「免疫チェックポイント阻害薬耐性後に化学療法が著効した非小細胞肺癌の1例」 発表者：金沢大学附属病院がんセンター医員佐藤成樹 先生</p> <p>特別講演：「緩和ケア最近のトピックス ~早期介入からサイバーまで~」 講師：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター緩和部門 教授 間宮敬子 先生</p> <p>参加者：165名</p> 
<p>第16回</p>	<p>北信がんプロ 第16回オンコロジーセミナー</p> <p>日時：令和3年9月22日(水) 18:00~20:00 場所：各大学、各施設テレビ会議室 のみ</p> <p>特別講演： ・エキスパートパネルの準備や進行についての1説明 ・オンコロジーセミナー 東北大学主催によるエキスパートパネル</p> <p>講師： 東北大学医学系研究科地域がん医療推進センター 准教授 城田英和 先生 東北大学大学院医学系研究科 医学部臨床腫瘍学分野教授 石岡千加史 先生 金沢大学附属病院がん進展制御研究所副所長 教授 矢野聖二 先生</p> <p>参加者：55名</p> 
<p>第17回</p>	<p>北信がんプロ 第17回オンコロジーセミナー</p> <p>日時：令和3年11月18日(木) 18:00~20:00 場所：各大学、各施設テレビ会議室、Web視聴</p> <p>症例検討1：「BRAF V600E 陽性肺腺癌の一例」 発表者：富山大学附属病院第一内科診療准教授猪又峰彦 先生</p> <p>症例検討2：「持続する咳嗽を認めた10代女性 ~コロナは陰性だったけど~」 発表者：金沢大学附属病院血液内科医員東 大貴 先生</p> <p>特別講演：「転移性腎癌に対する複合免疫療法の現状と課題」 講師：富山大学附属病院泌尿器科 診療科長・教授北村寛 先生</p> <p>参加者：90名</p> 

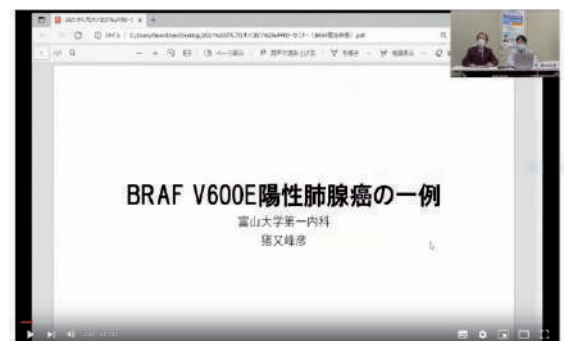
No.	内容
第18回	<p>北信がんプロ 第18回オンコロジーセミナー</p> <p>日時：令和4年3月24日(木) 18:00~20:00</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、Web視聴</p> <p>症例検討1：「リスク低減卵管卵巣摘出術(RRSO)にて微小浸潤癌を認めた遺伝性乳がん卵巣癌の一例」</p> <p>発表者：金沢医科大学病院産科婦人科 佐伯 吉彦 先生</p> <p>症例検討2：「Erdafitinibが有効であった転移性膀胱癌の一例」</p> <p>発表者：福井大学医学部附属病院泌尿器科 助教 多賀 峰克先生</p> <p>特別講演：「ゲノムバイオマーカーに基づくがん個別化治療の最前線 (Cutting Edge of Precision Cancer Medicine based on genomic biomarker)」</p> <p>講師：慶應義塾大学医部附属センター ゲノム医療ユニット長 教授 西原 広史 先生</p> <p>参加者：71名</p>



〈開催風景〉



(YouTube 配信)



ライフステージ事例検討会 全8回

No.	内容
第1回	<p>第1回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年6月1日（火）17：45～19：15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：悔いのない最期を迎えるために</p> <p>事例発表者：市立砺波総合病院 石原由佳</p> <p>ミニレクチャー：ACPにおけるrelational autonomyを考える</p> <p>講師：市立砺波総合病院 がん看護専門看護師 平 優子</p> <p>参加者：196名</p> 
第2回	<p>第2回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年7月6日（火）17：45～19：15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：抗がん剤と医療用麻薬を内服している患者の 自己効力感に着目したセルフマネジメント力を高める支援</p> <p>事例発表者：金沢大学附属病院 がん看護専門看護師 佐伯千尋</p> <p>ミニレクチャー：セルフマネジメント</p> <p>講師：金沢大学附属病院 がん看護専門看護師 佐伯千尋</p> <p>参加者：130名</p> 
第3回	<p>第3回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年8月3日（火）17：45～19：15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：抗がん剤治療の継続と中止の間を揺れ動く 患者の関わりについて</p> <p>事例発表者：石川県立中央病院 がん看護専門看護師 内村恵里子</p> <p>ミニレクチャー：意思決定支援と行動経済学</p> <p>講師：石川県立中央病院 がん看護専門看護師 内村恵里子</p> <p>参加者：141名</p> 
第4回	<p>第4回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年10月5日（金）17：45～19：15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：化学療法目的で短期入院を繰り返す患者の意思決定支援 -自部署における取り組み-</p> <p>事例発表者：福井大学医学部附属病院 看護師 小木茉莉亜 姉崎 茜</p> <p>ミニレクチャー：本邦の意思決定支援に関するガイドラインと臨床への応用</p> <p>講師：福井大学医学部附属病院 がん看護専門看護師 高野智早</p> <p>参加者：149名</p> 

No.	内容	
第5回	<p>第5回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年11月2日(火) 17:45~19:15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：化学療法による脱毛への不安が強い患者の支援</p> <p>事例発表者：石川県立中央病院 がん看護専門看護師 藤川直美</p> <p>ミニレクチャー：化学療法を受ける患者の脱毛による外見変化が及ぼす影響とアピランスケア</p> <p>講師：石川県立中央病院 がん看護専門看護師 藤川直美</p> <p>参加者：127名</p>	
第6回	<p>第6回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和3年12月7日(火) 17:45~19:15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：壮年期にある肺がん患者の看護</p> <p>事例発表者：金沢医科大学病院 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 齋藤利英</p> <p>ミニレクチャー：がん患者の倫理的課題と意思決定を支えるケア</p> <p>講師：金沢医科大学病院 がん看護専門看護師 上埜千春</p> <p>参加者：119名</p>	
第7回	<p>第7回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和4年2月1日(火) 17:45~19:15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：治療中に育児希望があった患者との関わり</p> <p>事例発表者：富山大学附属病院 がん看護専門看護師 樋口麻衣子</p> <p>ミニレクチャー：がんになって子供をもつこと</p> <p>講師：富山大学附属病院 がん看護専門看護師 樋口麻衣子</p> <p>参加者：76名</p>	
第8回	<p>第8回ライフステージ事例検討会</p> <p>日時：令和4年3月1日(金) 17:45~19:15</p> <p>場所：各大学、各施設テレビ会議室、YouTube 配信</p> <p>事例検討：認知症のある高齢がん患者が受けたい治療と望む暮らし</p> <p>事例発表者：福井県立病院 がん放射線療法看護認定看護師 竹内真美</p> <p>ミニレクチャー：認知症のある高齢がん患者を支えるためのヒント</p> <p>講師：福井県立病院 がん看護専門看護師 玉村尚子</p> <p>参加者：106名</p>	

	内 容
<p>金 沢 大 学</p>	<p>国際シンポジウム International Symposium on Tumor Biology in Kanazawa2021 令和3年度 金沢大学がん進展制御研究所 日 時：令和3年11月26日（金）17：00～20：20 場 所：ナノ生命科学研究所4階会議室（会場参加）Web 配信 主 催：がん進展制御研究所、金沢国際がん生物学研究会 共 催：NanoLSI、新学術創成研究機構、北信がんプロ 参加者：145名</p> 
	<p>第49回 石川県がん診療連携拠点病院研修会 日 時：令和3年7月1日（木）18：00～20：00 配 信：Zoom による Web 配信 演 題：「胃癌治療の現状：闘うと支える」 講 師：福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長 廣野靖夫先生 演 題：「がんゲノム検査の現状と未来」 講 師：国立がん研究センター 研究所ゲノム生物学研究分野 分野長 /C-CAT 情報活用戦略室長 河野隆志先生 共 催：金沢大学附属病院、北信がんプロ、株式会社ヤクルト本社 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：72名(医師15名,看護師7名,薬剤師35名,その他15名)</p> 
	<p>第50回 石川県がん診療連携拠点病院研修会 日 時：令和3年10月27日（水）18：00～20：00 配 信：Zoom による Web 配信 演 題：「がんになっても妊娠・出産できますか？ ～福井県におけるがん生殖医療の実際～」 講 師：福井大学医学部産科婦人科 講師 折坂 誠先生 演 題：「実践！EGFR-TKI副作用マネジメント」 講 師：大阪国際がんセンター 呼吸器内科 副部長 西野和美先生 共 催：金沢大学附属病院、北信がんプロ、アストラゼネカ株式会社 後 援：石川県病院薬剤師会 参加者：80名(医師15名,看護師23名,薬剤師31名,その他11名)</p> 

内容

第51回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時：令和4年3月17日（木）18：00～20：00
 配信：Zoom による Web 配信
 演題：「サイバーナイフによる定位放射線治療と全身的作用」
 講師：医療法人社団藤聖会 五福副神経外科
 富山サイバーナイフセンター センター長 水野 英一先生
 演題：「免疫チェックポイントの新たな潮流
 ～IO+IOの応用～」
 講師：岩手医科大学内科学講座 呼吸器内科分野
 教授 前門戸 任 先生
 共催：金沢大学附属病院、北信がんプロ、小野薬品工業株式会社
 /ブリistol・マイヤーズスクイブ株式会社
 後援：石川県病院薬剤師会
 参加者：74名



金沢大学

第23回石川県がん診療連携協議会 県民公開講座

日時：令和3年8月29日（木）18：00～20：00
 配信：Zoom による Web 配信
 演題：「石川県における妊孕性温存ネットワークと
 治療費助成について」
 講師：相川広一（石川県健康福祉部健康推進課 次長兼課長）
 演題：「女性のがん治療と将来の妊娠について」
 講師：水本泰成（金沢大学附属病院 産科婦人科 講師）
 演題：「男性のがん治療と生殖機能への影響」
 講師：飯島将司（金沢大学附属病院 泌尿器科 助教）
 演題：「妊孕性温存療法の実際」
 講師：上林 大岳（金沢たまごクリニック 副院長）
 主催：石川県がん診療連携協議会
 後援：石川県 石川県医師会 北信がんプロ 金沢大学がん進展制御研究所
 参加者：99名



北信がんプロ交流セミナー

日時：令和3年11月3日（木）13：00～15：00
 配信：RICOH システムによる Web 配信
 発表者：金沢大学、信州大学、富山大学、福井大学、
 金沢医科大学、石川県立看護大学
 テーマ：学生と教員・学生間との交流。
 プレゼンは1つの勉強。どんな内容でも、どんな発表でも良い。
 交流がメイン。参加者は、学生、OG・OB
 インテンシブコースからの参加も可能 お互いに話しやすい形で行う。参加者：33名



内容

医療者のための緩和ケア講演会

「看護専門職として、目指し続けたいこと」

日時：令和3年11月3日（水・祝）12：30～14：00

場所：zoomにてオンライン開催

講師：石垣 靖子（北海道医療大学 名誉教授）

主催：信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

共催：北信がんプロ

参加者：274名



がんゲノム看護セミナーin 信州 2021

日時：令和3年11月21日（日）9：00～12：00

場所：zoomにてオンライン開催

プログラム

1. がんゲノム医療の現状

小泉知展

（信州大学医学部血液・腫瘍内科教室 教授 信州がんセンター長）

2. がんと遺伝（遺伝の基礎知識）

古庄知己

（信州大学医学部遺伝医学教室 教授 遺伝子医療研究センター長）

3. がんゲノム医療における看護師の役割

蓮岡佳代子（岡山大学病院 がん看護専門看護師）

4. 当院のがんゲノム医療における看護実践

百瀬華子（信州大学医学部附属病院 がん化学療法看護認定看護師）

主催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター

後援：北信がんプロ

参加者：47名



信州大学

医療者のための長野県緩和ケアアドバンス研修会 2021

日時：令和4年2月23日（水・祝）10：00～12：30

場所：zoomにてオンライン開催

演題1：「がん疼痛の薬物治療 -オピオイドの特徴と長期投与のコツ-」

講師：有賀悦子（帝京大学医学部 緩和医療学講座 教授・診療科長）

演題2：「循環器内科医として緩和ケア医に期待すること」

講師：大石醒悟


（兵庫県立姫路循環器病センター循環器内科・救急科医長）

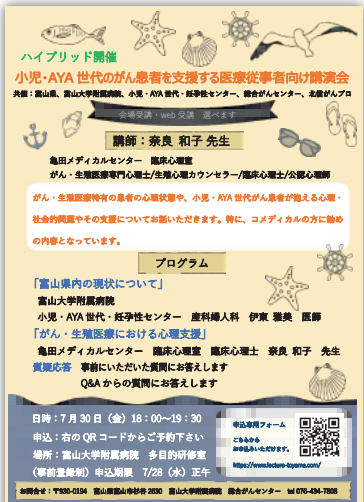
主催：信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター

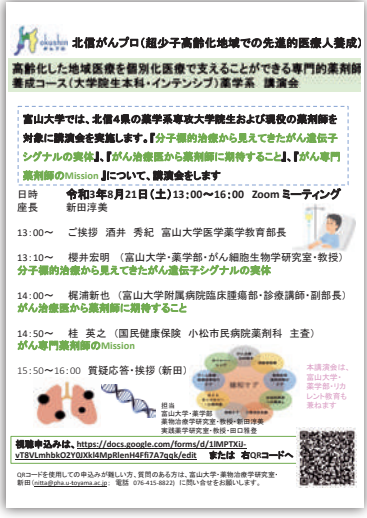
後援：北信がんプロ



参加者：184名



内容	
信州大学	<p>都道府県がん診療連携拠点病院医療者研修会</p> <p>「長野県のがんゲノム医療のさらなる普及をめざして」 ～もっと知ってもらいたいがんゲノム医療～</p> <p>日 時：令和4年3月17日（木）18:00～20:00 場 所：zoomにてオンライン開催</p> <p>講演1：「長野県におけるがんゲノム医療の実状と今後」 講 師：小泉知展（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター長）</p> <p>講演2：「がんゲノム医療における地域連携」 講 師：進士明宏（諏訪赤十字病院 通院治療センター長）</p> <p>講演3：「提出検体の選択方法と注意点」 講 師：浅香志穂（信州大学医学部附属病院 臨床検査部）</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 共 催：北信がんプロ 参加者：148名</p> 

内容	
富山大学	<p>小児・AYA世代のがん患者を支援する医療従事者向け講演会</p> <p>日 時：令和3年7月30日（金）18:00～19:30 場 所：富山大学附属病院 多目的研修室 ハイブリッド開催（会場受講、Web受講）</p> <p>演 題：「富山県内の現状について」 「がん・生殖医療における心理支援」</p> <p>講 師：伊東 雅美（富山大学附属病院 小児・AYA世代・妊孕性センター 産科婦人科 医員） 奈良 和子（亀田メディカルセンター 臨床心理室 臨床心理士）</p> <p>質疑応答</p> <p>共 催：富山県、富山大学附属病院、 小児・AYA世代・妊孕性センター、 総合がんセンター、北信がんプロ</p> <p>参加者：63名（オンライン参加者含む）</p> 

内容	
富山大学	<p>高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース 薬学系講演会</p> <p>日時：令和3年8月21日（土）13:00～16:00 形態：Zoom ミーティング 演題：「分子標的治療から見てきたがん遺伝子シグナルの 実体」 「がん治療医から薬剤師に期待すること」 「がん専門薬剤師のMission」</p> <p>講師：櫻井 宏明 (富山大学 薬学部 がん細胞生物学研究室 教授) 梶浦 新也 (富山大学附属病院 臨床腫瘍部 診療講師 副部長) 桂 英之 (国民健康保険 小松市民病院薬剤科 主査)</p> <p>主催：北信がんプロ (富山大学・薬学部) 参加者：50名 (オンライン参加者)</p> 

内容	
福井大学	<p>看護セミナー 「社会に求められるがん看護」</p> <p>日時：令和3年10月6日（水）18:00～19:30 場所：福井大学医学部講義等1階 合併講義室 + オンライン (Vimeo ライブ配信)</p> <p>演題：「がん患者のセルフマネジメントを高める遠隔看護の可能性」</p> <p>講師：佐藤 大介 (公立小松大学 保健医療学部 看護学科 准教授) 座長：磯見 智恵 (福井大学医学部看護学科臨床看護学分分野 教授)</p> <p>主催：北信がんプロ 共催：福井大学大学院医学系研究科 後援：福井県看護協会 参加者：130名</p>  

内 容	
福井大学	<p>がん医療スキルアップセミナー 「新しい流れをがん医療の現場に活かそう」</p> <p>日 時：令和4年2月18日（金）17：45 ～ 18：45</p> <p>場 所：福井大学医学部附属病院 臨床大講義室 + オンライン（YouTube ライブ配信）</p> <p>講演 1：テーマ「がんゲノム」 講 師：松田 安史 （福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 助教）</p> <p>講演 2：テーマ「アドバンス・ケア・プランニング」 講 師：児玉 麻衣子 （福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教）</p> <p>講演 3：テーマ「がんとリハビリ」 講 師：田中 太晶（福井大学医学部附属病院 整形外科 講師） 成瀬 廣亮（福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士）</p> <p>主 催：がん診療推進センター 共 催：北信がんプロ 参加者：49名</p>



内容

第1回消化器外科治療学セミナー／北信がんプロFD講演会

日時：令和3年4月26日(月) 17:30～18:30
場所：金沢医科大学 医学教育棟4階 E41講義室

演題：「難治性固形がんに対する
オンコリティック・アデノウィルス
(Oncolytic adenovirus)
— その開発と今後の展望 —」

講師：山本 正人
(ミネソタ大学 外科 外科研究担当副統括 教授
基礎・トランスレーショナル研究部 部長)

主催：金沢医科大学 一般・消化器外科学
共催：北信がんプロ
参加者：28名

金沢医科大学

第5回先進呼吸器外科学セミナー／北信がんプロFD講演会

日時：令和3年9月3日(金) 16:20～17:50
場所：Webex

演題：「呼吸器外科医ができる臨床と研究とは？」
講師：芳川 豊史
(名古屋大学 大学院医学系研究科 病態外科学講座
(呼吸器外科学分野) 教授)

主催：金沢医科大学 呼吸器外科学
共催：北信がんプロ
参加者：35名

病態診断医学セミナー／北信がんプロ教育セミナー

日時：令和3年11月18日(木) 17:00～18:00
場所：金沢医科大学 医学教育棟3階 病理診断室

演題：「Granulomatosis with polyangiitisの肺病理
～Overview と病理組織診断～」

講師：畑中 一仁
(東海大学 医学部基礎診療学系 病理診断学 准教授)

主催：金沢医科大学 臨床病理学
共催：北信がんプロ
参加者：14名

内容

腫瘍内科学セミナー／北信がんプロFD講演会

日時：令和3年11月25日（木）18:00～19:30

場所：金沢医科大学 医学教育棟4階 E41講義室

演題：「難治性スキルス胃がんの病態と治療」

講師：八代 正和

（大阪市立大学 大学院医学研究科 癌分子病態制御学 腫瘍外科学 准教授）

主催：金沢医科大学 腫瘍内科学

共催：北信がんプロ

参加者：15名

2021年11月25日（木）18:00-19:30
金沢医科大学医学教育棟4階 E41講義室

難治性スキルス胃がんの病態と治療

八代 正和 先生
大阪市立大学 医学部 准教授
大阪府立大学 医学部 准教授
大阪府立大学 医学部 准教授
准教授

胃がんは、診断技術や治療法の発展により予後が改善されてきました。しかし一方、胃がんのおよそ1割を占めるスキルス胃癌は、依然、難治性で改めて予後不良です。スキルス胃癌の病態解明や新規治療法開発が重要課題となっています。本講演では、外科手術材料を用いた30年間のスキルス胃癌研究の経緯と、明らかになってきた病態や治療戦略についてお話しします。

担当 金沢医科大学 大学院医学研究科腫瘍内科学 安本和生教授
共催 北信がんプロ
問い合わせ先 金沢医科大学 大学院医学研究科 腫瘍内科学 准教授 d.gakuin@kanazawa-med.ac.jp
※ がんプロe-learning科目の演習対象です。

感染症対策として、マスク着用のうえ、ご参加ください。

第40回腫瘍病理セミナー／北信がんプロFD講演会／金沢女性研究者フォーラム

日時：令和4年1月21日（金）16:00～18:30

場所：金沢医科大学 医学教育棟4階 E41講義室

および Webex によるハイブリッド開催

演題1：「脂肪肝で生じる細胞死の様式変化の分子スイッチ」

講師1：稲葉 有香

（金沢大学 新学術創生研究機構 准教授）

演題2：「消化器がんのポリクローナル転移機構」

講師2：大島 浩子

（金沢大学 がん進展制御研究所 准教授）

演題3：「がん微小環境における細胞老化の機能」

講師3：高橋 暁子

（公益財団法人がん研究会がん研究所 細胞老化プロジェクト プロジェクトリーダー）

主催：金沢医科大学 病理学 I

共催：北信がんプロ・金沢大学 がん進展制御研究所

参加者：40名

第40回 腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会
金沢女性研究者フォーラム

16:05～ 金沢大学 新学術創生研究機構 稲葉有香 脂肪肝で生じる細胞死の様式変化の分子スイッチ

16:30～ 金沢大学 がん進展制御研究所 大島浩子 消化器がんのポリクローナル転移機構

17:00～18:30 がん研究会がん研究所 細胞老化プロジェクトリーダー 高橋暁子 がん微小環境における細胞老化の機能

2022年1月21日（金）
金沢医科大学 医学教育棟4階 E41講義室
Webexでの参加も可能。
下記までご連絡ください
d.gakuin@kanazawa-med.ac.jp

本セミナーは、北信がんプロe-learning科目の演習対象です。

感染症対策として、マスク着用のうえ、ご参加ください。

金沢医科大学

第2回消化器外科治療学セミナー／北信がんプロFD講演会

日時：令和4年1月25日（火）18:00～19:30

場所：場所：金沢医科大学 医学教育棟4階 E41講義室

および Webex によるハイブリッド開催

演題：「肝細胞癌治療の最前線

改訂診療ガイドラインから最新の薬物療法のエビデンスまで」

講師：山下 竜也

（金沢大学 先進予防医学研究センター 金沢大学 附属病院消化器内科准教授）

主催：金沢医科大学 一般・消化器外科学

共催：北信がんプロ

参加者：41名

第2回消化器外科治療学セミナー・北信がんプロFD講演会

2022年1月25日（火）18:00-19:30
金沢医科大学医学教育棟4階 E41講義室

肝細胞癌治療の最前線 改訂診療ガイドラインから 最新の薬物療法のエビデンスまで

山下 竜也 先生
金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授
金沢大学 附属病院消化器内科 准教授

肝細胞癌治療の最前線。改訂診療ガイドラインから最新の薬物療法のエビデンスまで。最新の薬物療法は、肝細胞癌治療の最前線であり、患者の予後を大きく改善する可能性があります。本講演では、最新の薬物療法のエビデンスについてお話しします。

担当 金沢医科大学 一般・消化器外科学 高村博之教授
共催 北信がんプロ
問い合わせ先 金沢医科大学 大学院医学研究科腫瘍内科学 准教授 d.gakuin@kanazawa-med.ac.jp
※ がんプロe-learning科目の演習対象です。

感染症対策として、マスク着用のうえ、ご参加ください。

内容

第41回腫瘍病理セミナー／北信がんプロFD講演会

日時：令和4年2月4日（火）18:00～19:30

場所：場所：金沢医科大学病院 病院1号棟12階 大会議室

およびWebexによるハイブリッド開催

演題：「病理のデジタル化と人工知能の応用
～組織型推定から予後予測まで～」

講師：高松 学

（公益財団法人がん研究会がん研究所 病理部 研究員）

主催：金沢医科大学 病理学 I

共催：北信がんプロ

参加者：33名

第41回腫瘍病理セミナー-北信がんプロFD講演会

病理のデジタル化と人工知能の応用
～組織型推定から予後予測まで～



公益財団法人がん研究会がん研究所病理部
研究員 高松 学

2008年 岐阜大学医学部医学科卒業
2011年 同大・大学院医学系研究科 博士課程修了
2011年 公益財団法人がん研究会がん研究所 病理科研究員
2018年～ 現職

「病理診断は顕微鏡で行う」という常識は、近い将来古いものとなるかもしれません。病理標本をデジタルデータとして保存するスライドスキャナの開発の上、普及に伴い、病理診断を顕微鏡で行う、デジタル病理診断(Digital Pathology)が必ずや実現されていきます。病理診断で生体組織を処理するだけでなく、診断室内であってもPCを上手に活用すると、業務の効率化や病家の見直しも可能となるでしょう。

さらに、近年目覚ましい進歩を遂げている人工知能(AI)を病理診断に応用することで、数年までは決して想像しなかった診断精度の向上が期待されています。患者を病理診断の補助に留まらせない、患者が真に必要な情報を提供から引き出す新たな取組みが期待されていきます。例えば診断であれば、デジタルスライド上の癌の部位はもとより、予後に影響を与える癌の部位はどうか、という情報を引き出すことができます。

より高質な医療を求め、様々な視点から病理画像を解析する、現在の取り組みを紹介します。

1. Takamatsu M, Yamamoto N, Kawachi H, et al. Prediction of early colorectal cancer metastasis by machine learning using digital slide images. Comput Methods Programs Biomed. 2019;178:155-161.
2. Takamatsu M, Kawachi H, Yamamoto N, et al. Immunohistochemical evaluation of tumor budding for predicting T1 colorectal cancer optimal cut-off value and a novel computer-assisted semiautomatic method. Mod Pathol. 2020;33(5):675-683.



腫瘍のWhole-slide image (WSI) ■ 予後不良成分 ■ 予後良好成分

2022年2月4日（金）18時から
金沢医科大学病院1号棟12階 大会議室
Webexでの参加も可能。下記までご連絡ください
d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

本セミナーは、北信がんプロ自研・自製AIの活用対象です。

内容

令和3年度FD研修

「第27回石川緩和医療研究会」

日時：令和3年7月17日(土) 13:00~15:30

場所：オンライン

【第一部：一般演題】

【第二部：特別講演】

「コロナ禍の状況における緩和ケア実践の現状とその対策」

木澤 義之

(神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科)

主催：石川緩和医療研究会

共催：北信がんプロ

参加者：71名



石川県立看護大学

令和3年度看護実践セミナー

「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」【基礎編】

日時：令和3年9月23日(木) 9:30~16:00

場所：石川県立看護大学 1階研修室

講師：高地 弥里

(石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師)

主催：北信がんプロ 参加者：65名

【アドバンス編】

日時：令和三年10月9日(土) 9:00~13:00

場所：石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

講師：時山 麻美 (富山県立中央病院 がん看護専門看護師)

高地 弥里 (石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師)

主催：北信がんプロ

参加者：4名



令和3年度FD研修

「英国緩和ケアWEB研修」

日時：令和4年3月10日(木)17:00~19:45

場所：オンライン

【第一部】 ビデオ視聴セッション

【第二部】 ライブセッション

「コロナ禍における専門的緩和ケアの提供」

カレン・トゥッジ (ドロシーハウス 患者家族サービス次長)

「悲願と死別 ―事例検討を通して―」

アン・モンターギュ (ドロシーハウス 心理支援リーダー)

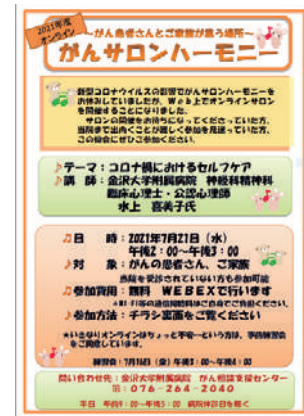
主催：北信がんプロ

参加者：108名

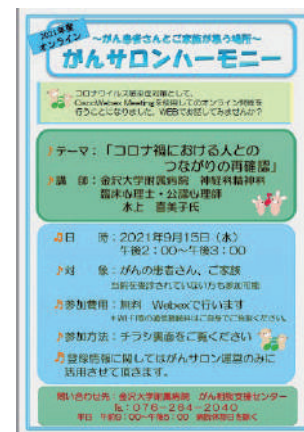


内容

がん患者さんとご家族が集う場所
 がんサロンハーモニ
 日時：令和3年7月21日（水）14：00～15：00
 場所：Webex
 演題：「コロナ禍におけるセルフケア」
 講師：水上喜美子
 （金沢大学附属病院 神経科精神科 臨床心理士 公認心理師）
 主催：金沢大学附属病院 がん相談支援センター



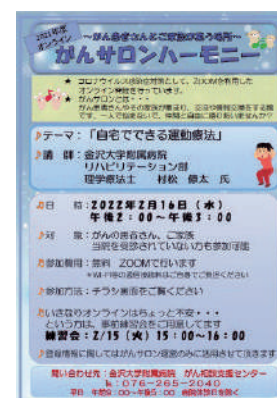
がん患者さんとご家族が集う場所
 がんサロンハーモニ
 日時：令和3年9月15日（水）14：00～15：00
 場所：Webex
 演題：「コロナ禍における人とのつながりの再確認」
 講師：水上喜美子
 （金沢大学附属病院 神経科精神科 臨床心理士 公認心理師）
 主催：金沢大学附属病院 がん相談支援センター



がん患者さんとご家族が集う場所
 がんサロンハーモニ
 日時：令和3年11月17日（水）14：00～15：00
 場所：Zoom
 演題：「症状にあわせた役立つレシピ」
 講師：古一素江
 （金沢大学附属病院 栄養管理部 管理栄養士）
 主催：金沢大学附属病院 がん相談支援センター



がん患者さんとご家族が集う場所
 がんサロンハーモニ
 日時：令和4年2月16日（水）14：00～15：00
 場所：Zoom
 演題：「コロナ禍におけるセルフケア」
 講師：村松僚太
 （金沢大学附属病院 リハビリテーション部 理学療法士）
 主催：金沢大学附属病院 がん相談支援センター



金沢大学（金沢大学附属病院）

合同市民公開講座

内容

令和3年度 北信がんプロ合同市民公開講座

「北信地域におけるがん診療の未来」

日時：令和3年12月5日（日）13：30～16：20

場所：富山国際会議場大手町フォーラム3Fメインホール

オンライン（YouTube 配信）併用

～第1部～ 基調講演

講演1：「北信がんプロ5年間のあゆみ」

講師：矢野 聖二

（北信がんプロ統括事業責任者

金沢大学附属病院がんセンター長 教授）

講演2：「がん看護実践の課題とチャレンジ ～5年間の北信がんプロを振り返って～」

講師：牧野 智恵（石川県立看護大学 成人・老年看護学講座 教授）

講演3：「北信がんプロデータベースで北陸・信州のがんの特徴をあぶりだす！」

講師：小谷 浩（金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科 助教）

講演4：「北信地域における小児・AYA世代のがんおよび肺がんの特徴

—北信がんプロデータベースを用いた解析から—

講師：小泉 知展（信州大学医学部 血液・腫瘍内科学教室 教授 信州がんセンター長）

講演5：「大学と地域を結ぶ —北信がんプロ5年間の活動を通して—

講師：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター センター長）

講演6：「がん個別化医療の地域医療の浸透を目指して—がんプロ活動の歩みから—

講師：安本 和生（金沢医科大学医学部 腫瘍内科学 教授）

講演7：「富山県のがんゲノム医療と北信がんプロ」

講師：林 龍二（富山大学附属病院 総合がんセンター長 教授）

～第2部～ パネルディスカッション【北信地域におけるがん診療の未来】

パネリスト：富山肺がん患者会「ふたば」代表

富山 AYA 世代がん患者会「Colors」代表

各講演の講師

主催：北信がんプロ、北國新聞社、富山新聞社

後援：富山県、富山市、富山県医師会、富山市医師会、

富山県薬剤師会、富山市薬剤師会、

富山県看護協会、富山県がん診療連携協議会

参加者：130名（オンライン参加者含む）



富山大学



北陸三県と長野県の6大学で取り組む、がん専門医療人材養成プラン「北信がんプロ」の合同市民公開講座は昨年12月、富山市の富山国際会議場で開かれました。5カ年のプログラムが最終年度を迎え、6大学の専門家が将来につながる治療や研究の成果を紹介しました。



多様な人材を育てる

北信がんプロの目的は、大卒生や医療従事者を養成するだけでなく、富山県や長野県に在住する専門人材として育ち、早期の社会復帰が何よりも重要となる人材を育てること。富山県や長野県に在住する専門人材として育ち、早期の社会復帰が何よりも重要となる人材を育てること。

富山県立富山大学、北陸先端科学技術大学院大学、金沢大学、富山大学、長野県立大学、富山県立看護大学



【講師】小泉 知展氏 (信州大学医学部血液腫瘍内科教授、信州がんセンター長)

北信地域における小児・AYA世代のがんおよび肺がんの特徴 —北信がんプロデータベースを用いた解析から—

若い世代の検診重要

2019年の北信地域がん登録報告書によると、北信地域の肺がんは、全年代にわたって増加傾向にある。特に、若い世代に増加傾向が見られる。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。

【講師】廣野 靖夫氏 (福井大学医学部腫瘍内科学診療センター長)

大学と地域を結ぶ—北信がんプロ5年間の活動を通して—

小中高生に出前講座

がん予防活動の一環として、小中高生に出前講座を実施している。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。



【講師】安本 和生氏 (金沢医科大学医学部腫瘍内科学教授)

がん個別化医療の地域医療の浸透を目指して —がんプロ活動の歩みから—

がん個別化医療の地域医療の浸透を目指して、がんプロ活動の歩みから。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。



【講師】林 龍二氏 (富山大学附属病院内がんセンター長、教授)

富山県のがんゲノム医療と北信がんプロ

富山県のがんゲノム医療と北信がんプロ。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。



拠点病院の 指定実現

とて、もやっかいな病気、がんを治す方法として、がん個別化医療が注目されている。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。

成果を未来へつなぐ

主催/北信がんプロ(多様な新ニーズに対応する)がん専門医療人材養成プラン、北信新聞社



【講師】矢野 聖一氏 (富山県立富山大学がん専門医療センター長、教授)

北信がんプロ5年間のあゆみ

北信がんプロ5年間のあゆみ。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。

緩和ケアに理解深め

緩和ケアに理解を深める。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。



がん看護実践の課題をアレンジ 5年間の北信がんプロを振り返って

学びを次代に継承

学びを次代に継承。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。また、がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。



【講師】小谷 浩氏 (富山県立富山大学がん専門医療センター長、教授)

北信がんプロデータベースで 北陸・信州のがんの特徴をあぶりだす

北信がんプロデータベースで北陸・信州のがんの特徴をあぶりだす。がんプロデータベースを用いた解析から、若い世代の検診が重要であると指摘されている。

市民公開講座

	内容
信州大学	<p>緩和ケアセンター市民公開講座</p> <p>「グリーンケア/緩和ケアを地域に根づかせる取り組み」</p> <p>日 時：令和3年10月14日（木）17：30～18：30</p> <p>会 場：zoomにてオンライン開催</p> <p>講 師：山崎 浩司（静岡社会健康医学大学院大学 教授）</p> <p>主 催：信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター</p> <p>後 援：北信がんプロ</p> <p>参加者：118名</p>



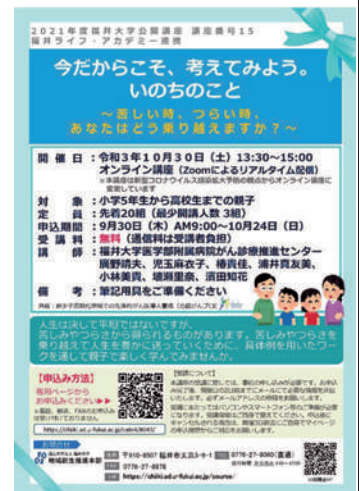
	内容
富山大学	<p>市民公開講座</p> <p>「地域・家族で考える乳がん」～かみいち総合病院開院 70 周年記念～</p> <p>日 時：令和3年7月11日（日）13：00～15：45</p> <p>場 所：北アルプス文化センター</p> <p>オンライン（YouTube 配信）併用</p> <p>～第1部～ 講演</p> <p>講演1：「サテライトセンター設立にあたって」</p> <p>講 師：藤井 努（富山大学附属病院 乳がん先端治療・乳房再建センター センター長）</p> <p>講演2：「検診って必要？」</p> <p>講 師：荒木 美聡（富山大学附属病院 乳腺科・内分泌外科）</p> <p>講演3：「乳がんは遺伝する？」</p> <p>講 師：金谷 瑛美（富山大学附属病院 乳腺科・内分泌外科）</p> <p>～第2部～ 講演</p> <p>講演4：「かみいち総合病院で受けられる乳がん先端治療」</p> <p>講 師：関根 慎一（かみいち総合病院 外科医長）</p> <p>講演5：「乳がん治療のパラダイムシフト」</p> <p>講 師：松井 恒志（富山大学附属病院 乳がん先端治療・乳房再建センター 副センター長）</p> <p>講演6：「心も治す乳房再建」</p> <p>講 師：佐武 利彦（富山大学附属病院 乳がん先端治療・乳房再建センター 副センター長）</p> <p>～第3部～ パネルディスカッション</p> <p>パネリスト：各講演の講師</p> <p>主 催：富山大学附属病院 乳がん先端治療・乳房再建サテライトセンター</p> <p>共 催：富山大学附属病院、北信がんプロ</p> <p>後 援：上市町（かみいち総合病院）</p> <p>参加者：182名（オンライン参加者含む）</p>



内 容	
富山大学	<p>市民公開講座 ～次の世代のがん医療～ 日 時：令和3年9月12日（日）13:00～15:05 場 所：富山国際会議場大手町フォーラム3Fメインホール オンライン（YouTube）配信</p> <p>～第1部～ 講演「各センターの特徴」 講演1：「がん治療におけるリハビリテーションの役割」 講 師：服部 憲明（がん・リハビリテーションセンター長） 講演2：「がん患者さんを支える漢方」 講 師：貝沼茂三郎（がん和漢薬治療センター長） 講演3：「子どものがんの治療と研究」 講 師：野村 恵子（小児・AYA世代・妊孕性センター） 講演4：「遺伝性腫瘍とは？一病気と検査のはなし」 講 師：牧野 輝彦（遺伝性腫瘍センター長）</p> <p>～第2部～ パネルディスカッション パネリスト：各講演の講師</p> <p>主 催：富山大学附属病院 総合がんセンター 共 催：富山大学附属病院、北信がんプロ 後 援：富山県、富山市、富山県医師会、富山市医師会、富山県薬剤師会、富山市薬剤師会、 富山県看護協会、富山県がん診療連携協議会</p> <p>参加者：85名（オンライン参加者）</p>



内 容	
福井大学	<p>福井大学公開講座 福井ライフ・アカデミー連携 「今だからこそ、考えてみよう。いのちのこと ～苦しい時、つらい時、あなたはどのように乗り越えますか？～</p> <p>日 時：令和3年10月30日（土）13:30～15:00 場 所：オンライン講座（Zoomによるリアルタイム配信） 講 師：児玉 麻衣子 （福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教） 廣野 靖夫（がん診療推進センター センター長） 椿 貴佳（がん診療推進センター 特命助教） 浦井 真友美（がん診療推進センター 看護師長）</p> <p>主 催：福井大学地域創生推進本部 がん診療推進センター 共 催：北信がんプロ 参加者：14名富山県看護協会、富山県がん診療連携協議会 参加者：85名（オンライン参加者）</p>



内容

県民公開シンポジウム がん診療最前線

「多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう」

日時：令和3年11月23日（火・祝）13:00～15:20

場所：福井大学文京キャンパス 総合研究棟 I 13階 会議室
+ オンライン（YouTube・Vimeo ライブ配信）

講演1：「子宮頸がんが予防できるワクチンを知っていますか？」

講師：黒川 哲司（福井大学医学部附属病院 産科婦人科 准教授）

講演2：「頭頸部がん

～口の中やのどのがん・最新治療と予防について～

講師：成田 憲彦

（福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授）

講演3：「小児がん ～知って・理解して・共感を～」

講師：鈴木 孝二（福井大学医学部附属病院 小児科 講師）

講演4：「がんゲノム検査

～がん細胞の持つ遺伝子の異常を治療に結び付けるために～

講師：松田 安史（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 助教）

講演5：「骨転移って骨のがん？ 骨転移はチーム医療で治療しよう！」

講師：田中 太晶（福井大学医学部附属病院 整形外科 講師）

主催：北信がんプロ 共催：福井新聞社

後援：福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、福井県病院薬剤師会、福井県がん診療連携協議会

NHK福井放送局、FBC、福井テレビ

参加者：会場 50名

Web 300組



北信がんプロ 県民公開シンポジウム
がん診療最前線
多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう

子宮頸がんが予防できる
ワクチンを知っていますか？
産科婦人科 准教授 黒川 哲司 先生

頭頸部がん
～口の中やのどのがん～
最新治療と予防について～
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 成田 憲彦 先生

小児がん
～知って・理解して・共感を～
小児科 講師 鈴木 孝二 先生

がんゲノム検査
～がん細胞の持つ遺伝子の異常を
治療に結び付けるために～
がん診療推進センター 助教 松田 安史 先生

骨転移って骨のがん？
骨転移はチーム医療で治療しよう！
整形外科 講師 田中 太晶 先生

ご挨拶・司会進行
がん診療推進センター
センター長 廣野 諒夫 先生

今年のテーマ
多くの世代に
いろいろながんのことを
知ってもらおう
YouTube・Vimeo ライブ配信 を行いました

本シンポジウムの動画を期間限定公開しています。
ぜひご覧ください。【令和4年3月31日まで】

北信がんプロ 県民公開シンポジウム がん診療最前線

多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう

第15回となる北信がんプロ県民公開シンポジウムは2021年11月23日、福井大学文学キャンパスで行われました。今回は「多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう」をテーマに、両大学医学部附属病院内の専門医らがそれぞれの立場から最新の事情を紹介し、医療の進展に伴うがん治療の新たな在り方について、会場を訪れた約50人、インターネットでの同時配信で視聴した延べ300組が認識を新たにしました。

※「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」は、北陸3県、新潟県、長野県の6大学が連携し、がん専門医療者の育成を促すプロジェクトです。

納得てる医療を求めて。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

福井大学

共催：福井新聞社
後援：福井県医師会、福井県医師会、福井県看護協会、福井県がん診療連携協議会、NHK福井放送局、FBC、福井テレビ

お問い合わせ：福井大学医学部腫瘍学診療学分野
〒910-1193 若手寺町松岡下合月23-3
Tel.0776-61-8857 Fax.0776-61-8656
gpro-fuku@ml.u-fukui.ac.jp

本シンポジウムの動画は、福井大学北信がんプロのホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。
[期間限定：令和4年3月31日まで] 視聴はコチラ

日本でも2013年4月、12歳〜16歳の年齢に国定定期接種ワクチンが追加された。このため、乳がんの発症率も増加している。子宮頸がんは乳がんと同じく、20〜30代前半で発症する傾向がある。子宮頸がんは乳がんよりも早く発見できる。ワクチン接種による予防が可能で、10〜30代の若者ががん発症率で低下している。特に若い世代のワクチン接種ががん予防につながっていることを示している。



子宮頸がんは乳がんと同じく、20〜30代前半で発症する傾向がある。子宮頸がんは乳がんよりも早く発見できる。ワクチン接種による予防が可能で、10〜30代の若者ががん発症率で低下している。特に若い世代のワクチン接種ががん予防につながっていることを示している。

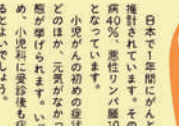
子宮頸がん ワクチンを知っていますか？

子宮頸がんは乳がんと同じく、20〜30代前半で発症する傾向がある。子宮頸がんは乳がんよりも早く発見できる。ワクチン接種による予防が可能で、10〜30代の若者ががん発症率で低下している。特に若い世代のワクチン接種ががん予防につながっていることを示している。



現在の日本ではがんは2人に1人がかかる病気ですが、がんは予防できる病気です。がんは予防できる病気です。がんは予防できる病気です。がんは予防できる病気です。

突然の入浴は子どもの命に危険を及ぼす可能性があります。子どもの入浴は必ず大人が一緒に行い、浴室のドアは常に閉めておく。子どもの入浴は必ず大人が一緒に行い、浴室のドアは常に閉めておく。



小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。

小児がん 小児がん 小児がん

小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。小児がんの発症率は10万人あたり1.5人です。

頭頸部がん

頭頸部がんは乳がん、肺癌に次いで3番目に多いがんです。頭頸部がんは乳がん、肺癌に次いで3番目に多いがんです。頭頸部がんは乳がん、肺癌に次いで3番目に多いがんです。

骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。



骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。

骨転移 骨転移はチーム医療で治療しよう

骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。骨転移はがんの転移の約70%を占めます。

がんゲノム医療

がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。

- Q がんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。
- A がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。
- Q がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。
- A がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。
- Q がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。
- A がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。がんゲノム検査はがんの転移の約70%を占めます。

内 容

金沢医科大学

WEB 市民公開公開講座

「日本のがん医療の近未来：がんゲノム医療から在宅でのがん医療まで」

日 時：令和3年2月12日～令和4年3月31日

場 所：WEB 配信

第I部

「がん遺伝子 パネル検査って何だろう？」

安本 和生（金沢医科大学腫瘍内科学 特任教授）

「がんと遺伝：家族性腫瘍症候群への対応」

新井田 要（金沢医科大学総合医学研究所 教授）

「ディスカッション：がんゲノム医療の今後について」

安本 和生・新井田 要

第II部

「日本のがん医療の近未来」

宮田 俊男

（早稲田大学理工学術院 教授/医療法人社団 DEN 理事長/金沢医科大学・客員教授）

「ディスカッション：がん医療の今後について」

宮田 俊男 早稲田大学理工学術院 教授

下平 滋隆 金沢医科大学医学部再生医療学 教授

高村 博之 金沢医科大学医学部一般・消化器外科学 教授

元雄 良治 金沢医科大学医学部腫瘍内科学 教授

主 催：金沢医科大学大学院医学研究科・北信がんプロ

共 催：石川県がん診療連携協議会

後 援：石川県医師会・北國新聞社・テレビ金沢・エフエム石川

参加者：延べ 385 回再生（令和3年3月31日時点）



市民公開公開講座

「がんを知り、がん備える。－女性のがんの治療最前線－」

日 時：令和3年11月6日（土）14：00～16：00

場 所：ホテル金沢4階 エメラルドルーム/Vimeoハイブリッド開催

令和4年11月17日～令和4年3月31日（アーカイブ配信）

演 題：「あなたの乳房は大丈夫ですかー乳がんから命を守るためにー」

講 師：井口 雅史（金沢医科大学乳腺・内分泌外科 准教授）

演 題：「意外に身近な子宮と卵巣のがん。」

どうやって見つける？そして予防する？」

講 師：高倉 正博（金沢医科大学産科婦人科学 臨床教授）他


主 催：金沢医科大学大学院医学研究科腫瘍内科学・北信がんプロ

共 催：石川県がん診療連携協議会

後 援：石川県医師会・北國新聞社・テレビ金沢・エフエム石川

参加者：75名（会場20名、オンライン55名）



内 容	
石川県立看護大学	<p>令和三年度 市民公開講座 「がんサロンの活動を知らう」 日 時：令和三年 11 月 22 日(月)18：00～19：30 場 所：オンライン</p> <p>【第一部】 報告会</p> <p>①福井県済生会病院 メディカルカフェでの活動 車屋 知美（臨床心理士）</p> <p>②富山県がん総合相談支援センターでの活動 尾川 洋子（統括相談員）</p> <p>③がんと向きあう会・元ちゃんハウスでの活動 西村 詠子（理事長）</p> <p>④石川県がん安心生活サポートハウス・つどい場はなうめの活動 木村 美代（看護師）</p> <p>⑤マギーズ東京の活動 秋山 正子（共同代表理事・センター長）</p> <p>主 催：北信がんプロ 共 催：北陸 CNS の会 後 援：石川県、富山県、福井県、金沢市、かほく市、 石川県看護協会、北國新聞社、福井新聞社 参加者：166 名</p> 



令和3年度 成果報告会 学長連絡協議会 運営協議会

【日 時】 令和4年2月22日(火) 17:30~19:00

【開催方法】 Cisco Webex によるオンライン会議

【参加者】

郵便番号	住所	所属	部署/役職	氏名
1		金沢大学	学長	山崎 光悦
2	920-1192 金沢市角間町	金沢大学	基幹教育改革・財務・附属病院担当理事	大竹 茂樹
3	920-8641 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学附属病院	がんセンター長・腫瘍内科教授/呼吸器内科長/統括事業責任	矢野 聖二
4	920-8641 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学附属病院	病院長	蒲田 敏文
5	920-8641 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学附属病院	医薬保健学総合研究科長/教授	堀 修
6	920-8641 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学附属病院	脳神経外科学 教授	中田 光俊
7		金沢大学附属病院		大島 正伸
8		金沢大学附属病院		武村 哲浩
9	920-8640 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学	医薬保健系事務部学生課長	上谷 順彦
10	920-8640 石川県金沢市宝町13-1	金沢大学	医薬保健系事務部総務課長	中場 美紀江
11		信州大学	学長	中村 宗一郎
12	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部附属病院	病院長	川森田 樹人
13	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	医学部長	中山 淳
14	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	血液・腫瘍内科学 教授	小泉 知康
15	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	小児医学 教授	中沢 洋三
16	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	産科婦人科学 教授	堀沢 丹里
17	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	衛生学公衆衛生学 教授	野見山 哲生
18	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	外科学教室 乳腺内分泌外科学分野	伊藤 研一
19	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	看護部 看護管理室 副部長	内田 緑
20	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	遺伝医学 教授	古庄 知己
21	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	信州がんセンター緩和部門 教授	間宮 敬子
22	390-8621 長野県松本市旭3-1-1	信州大学医学部	遺伝医学 コーディネーター	小島 朋美
23		富山大学	学長	齋藤 滋
24	930-0194 富山県富山市杉谷2630番地	富山大学附属病院	臨床腫瘍部教授	林 謙二
25	930-0194 富山県富山市杉谷2630番地	富山大学附属病院	薬物治療学教授	新田 淳美
26		福井大学	学長	上田 孝典
27	910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地	福井大学医学部附属病院	病院長	大崎 勇成
28	910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地	福井大学医学部附属病院	がん診療推進センター長 診療教授	廣野 靖夫
29		金沢医科大学	学長	神田 亨勉
30	920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1	金沢医科大学	腫瘍内科学特任教授	安本 和生
31	920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1	金沢医科大学	一般・消化器外科教授	高村 博之
32	920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1	金沢医科大学	公衆衛生学	西野 薫一
33		石川県立看護大学	学長	石垣 和子
34	929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1	石川県立看護大学	成人看護学 教授	牧野 智恵
35	929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1	石川県立看護大学	成人看護学 講師	松本 智里
36	923-0961 石川県小松市向本折町水60	小松市民病院	消化器内科担当部長	又野 豊
37	920-8660 石川県金沢市鞍月東2-48	石川県医師会	副会長	上田 博
38	920-8580 石川県金沢市鞍月1-1	石川県健康福祉部	健康福祉部次長	菊地 修一
39	920-8580 石川県金沢市鞍月1-1	石川県健康福祉部	健康福祉部健康推進課長	相川 広一
40	920-8588 石川県金沢市南町2番1号	北國新聞社	北信がんプロ 担当者	北畠 大貴
41	920-8588 石川県金沢市南町2番1号	北國新聞社		織田菜穂子
42	930-0975 富山県富山市西長江2丁目2-78	富山県立中央病院	外科 部長	前田 基一
43	938-0031 富山県黒部市三日市1108-1	黒部市民病院	副病院長	日高 隆雄
44	930-8501 富山市新総曲輪1番7号	富山県厚生部健康対策室健康課	がん対策推進担当	荒木 美智子
45	930-8501 富山市新総曲輪1番7号	富山県厚生部健康対策室健康課	主事	木田 大樹
46	926-0816 石川県七尾市藤橋町ア部6番地4	公立能登総合病院	病院長	上木 修
47	926-0866 石川県七尾市富岡町94	恵寿総合病院	病院長	鎌田 徹
48	926-0866 石川県七尾市富岡町94	恵寿総合病院	診療部長	山崎 雅英
49	926-0866 石川県七尾市富岡町94	恵寿総合病院	医事課長	前多 亜佐子
50	392-0027 長野県諏訪市湖岸通り5-11-50	諏訪赤十字病院	病院長	梶川 昌二
51	380-8582 長野県長野市若里5-22-1	長野赤十字病院	副病院長	小林 光

【各大学事務】

金沢大学	医薬保健系事務部学生課医学学務係	今村 麻左美
信州大学	信州大学医学部 学務第1係 がんプロ事務室 副事務長	松崎 博文
	信州大学医学部 学務第1係 がんプロ事務室	山内 藍雅
	信州大学医学部 学務第1係 がんプロ事務室	山下 美穂
富山大学	医薬系学務課 大学院教務チーム	高木 真樹子
	医薬系学務課 大学院教務チーム	西村 恵子
福井大学	松岡キャンパス運営管理課	武藤 香子
	腫瘍病態治療学分野	宮越 邦代
	松岡キャンパス学務課	池田 敦
	松岡キャンパス学務課	山本 祐子
金沢医科大学	学事部教学課 (大学院医学研究科担当) 課長	岡本 真一
	学事部教学課 (大学院医学研究科担当)	石野 道香
石川県立看護大学	総務課 主幹	森 孝弘
	がんプロ担当	岡山のそみ

【Web 会議風景】



文科科学省 平成29年度大学教育再生加速推進費
多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONAL）」養成プラン
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
令和3年度 成果報告会（学長連絡協議会・運営協議会）

■日 時 2022年（令和4年）年2月22日（火）17時30分～19時
■方 式 Web会議方式Cisco Webex によるオンライン会議

ミーティングリンクから参加する
<https://knzw-univ.webex.com/knzw-univ-jp/j1.php?MTID=mc165ad24e6497c4b0c280eb35d04cc7>

ミーティング番号：2650 496 3034 パスワード：1WWh2mXGQh2
※個人のPC等でご参加ください。

次 第

(開会挨拶) 金沢大学 学長 山崎光悦

(議 題) 1. 本事業の概要説明
北信がんプロ 統括事業責任者
金沢大学附属病院がんセンター 教授 矢野聖二

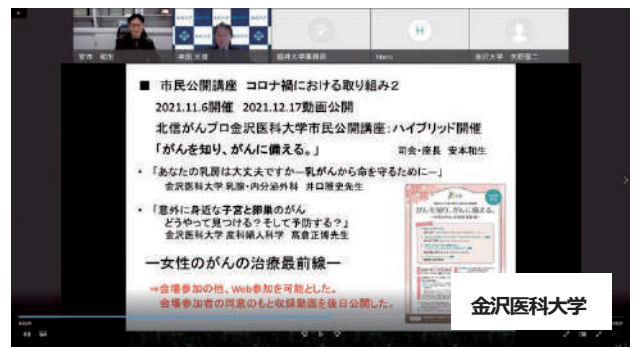
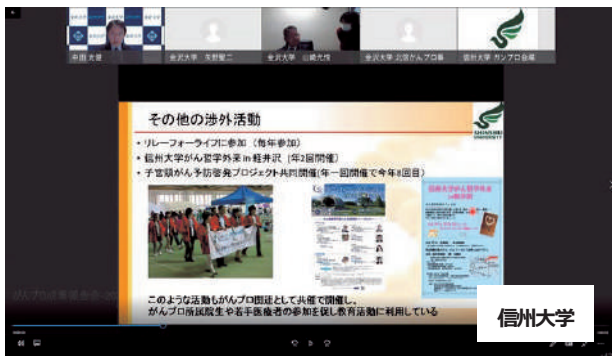
2. 「北信がんプロ」の5年間のあゆみについて 6大学代表×10分+質疑応答
信州大学 血液・腫瘍内科学 教授 小泉知展
富山大学 附属病院臨床腫瘍部 教授 林 健二
福井大学 がん診療推進センター 診療教授 廣野靖夫
金沢医科大学 腫瘍内科学 教授 安本和夫
石川県立看護大学 成人看護学 教授 牧野智恵
金沢大学附属病院がんセンター 教授 矢野聖二

3. その他、質疑応答（学長連絡協議会、運営協議会含む）

4. 【議 評】
信州大学 学長 中村 宗一郎
福井大学 学長 上田 孝典
金沢医科大学 学長 禎 田 孝 勲
石川県立看護大学 学長 石 垣 和 子

(閉会挨拶) 富山大学 学長 齋藤 滋

(19時00分 終了予定)



北信がんプロ成果報告会(2022年2月22日)

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ5年間のあゆみ

統括事業責任者 矢野 聖二

金沢大学附属病院 呼吸器内科・がんセンター

北信がんプロの実施事業

大学院生や医療従事者の教育

① 講義

がんに関するe-learning教材

② 演習(多職種連携)

北信オンコロジーセミナー
ライフステージ事例検討会

北信4県のがん拠点病院、
医師会、自治体と連携

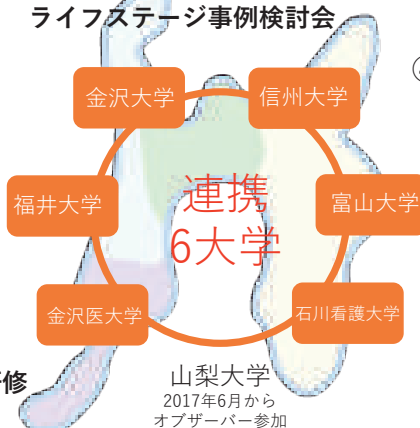
④ 地域がん医療の特徴把握

地域がんデータベース事業
地域のがん対策立案に活用

③ スタッフ研修(FD)

がん拠点病院や
大学プログラムと連携
した研修会を実施

海外研修



⑤ 市民啓発・教育

市民公開講座
がん教育

医療従事者のレベルアップ

市民・患者会に発信

①-1 履修生の状況

本科生コース (10)

令和3年12月28日現在

コース名	職種	履修生数		
		目標	実績	
金沢大学	先端的個別化医療	医師	20	26
	個別化薬物療法	薬剤師	7	6
	高度化医学物理士	医学物理士	8	8
信州大学	ゲノムがん治療医	医師	8	12
	遺伝カウンセラー	遺伝カウンセラー	4	9
富山大学	高齢がん患者対策	医師	16	30
	個別化医療薬剤師	薬剤師	4	3
福井大学	地域がん専門医	医師	8	21
金沢医科大学	がん専門医リーダー	医師	8	10
石川県立看護大学	がんライフステージ	看護師	8	7
			91	132

充足率
(145%)

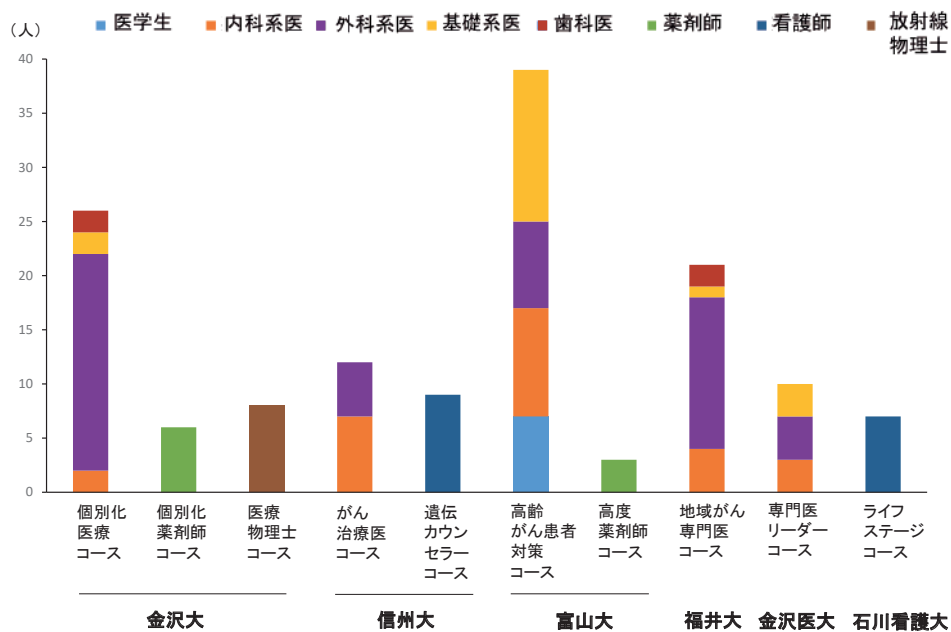
インテンシブコース (11)

コース名	職種	履修生数		
		目標	実績	
金沢大学	がんゲノム生涯教育	医師	26	39
	個別化薬物実践	薬剤師	12	12
	がんゲノム多職種連携入門	多職種	40	67
信州大学	がん専門医療人養成	多職種	25	31
富山大学	高齢がん患者対策	医師	10	10
	高齢対策薬剤師	薬剤師	9	12
	在宅緩和リハ	看護師	7	11
福井大学	在宅栄養管理	多職種	78	94
	在宅緩和医療	多職種	96	108
金沢医科大学	がん集学的治療	医師	9	10
石川県立看護大学	がんライフケア	多職種	22	32
		合計	334	426

(128%)

3

①-2 本科生コース履修者の職種内訳(H30年～R3年度)



①-3 新3科目の講義テーマの種類と整備状況

がんゲノム医療		小児・AYA・希少がん		ライフステージに応じたがん医療		
1	ゲノム医学の基礎とがんゲノム	○	1	小児・AYA世代の特徴	○	
2	がんゲノム医療総論	○	2	小児・AYA世代のがん治療総論	○	
3	がんゲノム医療の実際：1 体細胞変異がん (1)	○	3	小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	○	
4	がんゲノム医療の実際：2 体細胞変異がん (2)	○	4	小児・AYA世代腫瘍各論2 (この時期に起きる成人腫瘍)	○	
5	がんゲノム医療の実際：3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍 (胚細胞変異がん)	○	5	希少がん(小児・AYA世代以外)	○	
6	ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	○	6	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (1)	○	
7	がんゲノム医療に必要な体制と人材	○	7	晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (2)	○	
8	がんゲノム医療の応用と将来		8	小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	○	
				1	ライフステージに応じたがん予防医学	○
				2	ライフステージにおける壮年期がん医療	○
				3	ライフステージにおける高齢者がん医療ー機能・合併症の特徴と評価	○
				4	ライフステージにおける高齢者がん医療ー治療の特徴	○
				5	ライフステージに応じた包括的支援	○
				6	ライフステージにおける終末期のがん医療	○
				7	社会とがん医療	○
				8	ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	○

合計22科目を5年間で延べ3746人が履修

②-1 北信オンコロジーセミナー（多職種連携演習）

- ・ 目的：最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がん、希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習する演習

がんの病態、診断、治療に主眼をおいたセミナー

- ・ 対象：北信がんプロ受講生・北信地域の医療機関の多職種
- ・ 開催方法：がんプロTV会議システム
- ・ 主催：金沢大→富山大→金沢医大→福井大→信州大（持ち回り）

開催回	参加者数
1	104
2	104
3	119
4	64
5	72
6	80
7	124
8	88
9	90
10	91
11	193
12	143
13	141
14	113
15	171
16	61
17	98
18	R4/3/24に予定
合計	1856

がん診療連携拠点病院等との診療連携ネットワーク

大学 7拠点*1
がん診療連携拠点病院等 26拠点
(平成30年8月現在) *1山梨大学含む



②-2 ライフステージ事例検討会（多職種連携演習）

石川県立看護大が中心

参加対象：医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーなど

平成30年度 石川県立看護大学
 癌分子高幹化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

**テレビ会議システムを利用した
 ライフステージ事例検討会**

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう！
 北信4県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います！
 施設の仕様を越えて、日頃のがん患者さんやご家族へのケアについて意見交換しましょう！

◆開催日程（8回予定）
 平成30年 6月5日(火) 7月3日(火) 8月7日(火)
 10月2日(火) 11月6日(火) 12月4日(火)
 平成31年 2月12日(火) 3月5日(火)

◆開催時間 17時45分～19時15分
 （事例検討：60分、ミニレクチャー：30分）

◆対象 看護師、医療従事者
 がん看護専門看護師申請予定者
 休職中の看護師で復職を予定している方

◆会場 開催予定施設のテレビ会議システム設置室
 ※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
 倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
 2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します

◆アドバイザー◆
 ・牧野頼恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）
 ・各施設のがん看護専門看護師（OCNS）、医師、薬剤師

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。
 ※開催予定施設、連絡先は裏面をご覧ください

◆お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課
 〒929-3210 石川県加賀市宇開台1-1 TEL (076)281-8300 FAX (076)281-9319

企画・運営 石川県立看護大学

主催：癌分子高幹化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
 (石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・福井大学 共同開催)



(開催予定)

H29年度	8回
H30年度	8回
R1年度	7回
R2年度	9回
R3年度	8回
計	40回

過去38回の開催
 参加者 **3890**名



③-1 海外スタッフ研修の実績

年度	主幹校	テーマ	訪問施設	参加人数	日程
2017	金沢大	がんゲノム医療	ワシントンDC 国立ヒトゲノム研究所(NHGRI) 国立がん研究所(NCI)	12	2018/2/12-2/17
	石川看護大	緩和ケア	メルボルン モナッシュ大学 ビクトリア州保健福祉局 など合計6施設	14	2018/3/24-3/30
2018	金沢医大	高度医療	台湾 高雄醫學大學	15	2018/11/13-11/17
2019	信州大 富山大	がんゲノム医療	台湾 台北医学大学 台北医学大学雙和病院	12 (中止)	2020/2/17-2/21

最先端の医療を現地で学び、スタッフのモチベーションを高めた



アメリカ/がんゲノム医療 オーストラリア/緩和ケア

海外FD研修報告会を 連携6大学のTV会議で実施



海外FD研修報告会

日程
5月9日(水)
18:00~20:00

第1部 18:00~18:45
アメリカ/ワシントンDC 視察 報告
視察施設: 国立ヒトゲノム研究所、国立がん研究所

第2部 18:50~19:35
オーストラリア/メルボルン 視察 報告
視察施設: ビクトリア州保健福祉局、ロイヤルメルボルン病院、モナッシュ子ども病院他

【会場】
各大学・各医療施設等
がんプロテレビ会議室

【金沢大学会場】
医学類教育棟 地下大多目的室

トoooooooooooooooooooo
本年度は、富山大学・金沢医科大学が主催で開催いたします。
詳細は、決定後、ご案内させていただきます。
トoooooooooooooooooooo

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ事務局
金沢大学大学院医療保健学総合研究科内
〒920-8640 金沢市宝町14-1
TEL076(234)4205/(265)2834 FAX076(285)2855
E-mail gpro@med.kanazawa-u.ac.jp http://www.gan-pro.net/

参加者全員がスライドで成果を発表

3月27日 a.m
Monash Children's Hospital

石川県立看護大学
金谷 雅代
樋口 麻衣子

研修成果を連携6大学のスタッフに還元

④-1 地域がんデータベース

目的: 北信地域のがん患者さん、がん医療の特徴を明らかにする
↓
将来のがん対策立案に活用する

金沢医大



西野善一

28のがん拠点病院/北信4県

院内がん登録データをデータベース化し北信地域でのがん対策立案に利活用

倫理委員会による承認取得

様式: 既存資料・情報研究用 (0015_Snoz)

研究計画書

1 課題名: 北信地域におけるがん医療の実態を把握するデータベース構築

2 研究期間: 倫理委員会承認日 ~ 西暦 2024年 3月 31日
(原則5年以内、必要に応じて、延長申請、延期(観察)期間をきめます。)

3 研究実施体制

	氏名	所属部署	所属分野等	職名	研修の受講
調査責任者	大野 聖二	がん 連携 初期研究 実行	腫瘍内科	教授	■受講済 □未受講
	中野 光俊	がん 連携 研究 臨床 医学 部	放射線科/放射線	教授	■受講済 □未受講
研究分担者(学内)	谷本 伸	がん 連携 初期研究 実行	腫瘍内科	助教	■受講済 □未受講
	山下 要	附属病院	がんセンター	助教	■受講済 □未受講
	山岡 伸介	附属病院	経営企画部	主任助教	□受講済 □未受講
	横谷 典雄	附属病院	がん 連携 臨床 研究 実行		□受講済 □未受講

22の協力施設

- 長野県: 信州大学病院、佐久総合病院、諏訪赤十字病院、相澤病院、長野赤十字病院、長野市民病院、長野県立こども病院
- 富山県: 富山大学病院、富山市民病院、黒部市民病院、富山労災病院、厚生連高岡病院、高岡市民病院、砺波総合病院、富山県立中央病院
- 石川県: 金沢大学病院、金沢医科大学病院、石川県立中央病院、金沢医療センター
- 福井県: 福井大学病院、福井県立病院、敦賀医療センター

2010年~2015年症例: 157,354例
2016年~2017年症例: 56,186例

約21万症例

データベース化を実施

④-2 地域がんデータベース解析による英語論文とメッセージ

International Journal of Cancer Oncology 2021; 126: 1039-1014
<https://doi.org/10.1007/s12032-021-01993-3> Int J Clin Oncol 2021

ORIGINAL ARTICLE

Multi-institutional survey of cancer disparities in disabled patients in the region of northwestern Japan

Shigeki Sato¹, Azusa Tanimoto², Kazuhito Yonagimura³, Chiaki Suzuki⁴, Yohai Takumi⁵, Akihito Nishiyama⁶, Kaname Yamashita⁷, Shoji Takahashi⁸, Kazuhiko Ohtsuka⁹, Tomoe Makino¹⁰, Yoshio Yoshida¹¹, Yasuo Hirono¹², Ryuji Hayashi¹³, Tomonobu Koizumi¹⁴, Yozo Nakazawa¹⁵, Ken-ichi Ito¹⁶, Yoshiharu Mutoh¹⁷, Hidetaka Uramoto¹⁸, Mitsutoshi Nakada¹⁹, Yoshikazu Nishino²⁰, Seiji Yano²¹

Received: 12 October 2020 / Accepted: 16 February 2021 / Published online: 1 March 2021
 © Japan Society of Clinical Oncology 2021

Journal of Cancer Research and Clinical Oncology
<https://doi.org/10.1007/s00432-021-03620-8> J Cancer Res Clin Oncol 2021

ORIGINAL ARTICLE - CLINICAL ONCOLOGY

Multi-institutional survey of thymic carcinoma patients in Hokushin region

Hidetaka Uramoto¹, Tomoya Takiguchi², Tomonobu Koizumi³, Azusa Tanimoto⁴, Ryuji Hayashi⁵, Yozo Nakazawa⁶, Ken-ichi Ito⁷, Mitsutoshi Nakada⁸, Yasuo Hirono⁹, Yoshikazu Nishino¹⁰, Seiji Yano¹¹

Received: 11 February 2021 / Accepted: 25 March 2021
 © The Author(s), under exclusive license to Springer Verlag GmbH Germany, part of Springer Nature 2021

Journal of Cancer Research and Clinical Oncology
<https://doi.org/10.1007/s00432-021-03699-z> J Cancer Res Clin Oncol 2021

ORIGINAL ARTICLE - CLINICAL ONCOLOGY

Multi-institutional survey of malignant pleural mesothelioma patients in the Hokushin region

Hidetaka Uramoto¹, Tomoya Takiguchi², Tomonobu Koizumi³, Azusa Tanimoto⁴, Ryuji Hayashi⁵, Yozo Nakazawa⁶, Ken-ichi Ito⁷, Mitsutoshi Nakada⁸, Yasuo Hirono⁹, Yoshikazu Nishino¹⁰, Seiji Yano¹¹

Received: 23 March 2021 / Accepted: 14 June 2021
 © The Author(s), under exclusive license to Springer Verlag GmbH Germany, part of Springer Nature 2021

JJCO Japanese Journal of Clinical Oncology, 2021, 1: 11
<https://doi.org/10.1007/s10147-021-01993-3> Epidemiology Note

Jap J Clin Oncol 2021

Epidemiology Note

Cancer among children, adolescents and young adults in the Hokushin region, Japan, between 2010 and 2015

Eri Okura¹, Yoshikazu Nishino², Kazuo Sakashita³, Azusa Tanimoto⁴, Ryuji Hayashi⁵, Yoshio Yoshida⁶, Mitsutoshi Nakada⁷, Tomonobu Koizumi⁸, Seiji Yano⁹ and Yozo Nakazawa¹⁰*

「障がい者ががん患者の実態」谷本 梓（金沢大）

障がい者でも標準的治療を受けている
 →障がい者でのがん検診で早期発見を

「胸膜中皮腫の診療実態」浦本 秀隆（金沢医大）

15.2万中166名。富山県で2~3倍多い傾向
 →富山県では特に早期発見の取組が重要

「胸腺がんの診療実態」浦本 秀隆（金沢医大）

15.2万中88名。25名（28%）が
 他疾患通院中に発見も早期発見は7名のみ
 →希少がんの存在を認識した経過観察が必要

「小児・AYA世代がんの実態」中沢 洋三（信州大）

15.2万中5718名（約4%）。
 0~14歳では白血病が、15~39歳ではがん
 （特に子宮頸がんと乳がん）が最多
 →子宮頸がん、乳がんの対策が特に重要

⑤-1 合同市民公開講座（全連携校が参加）

目的：市民への啓蒙
 がん教育

毎年持ち回りで主幹



同日に学長連絡協議会を開催し
 全学長による進捗管理を実施

がんになってから考える?
 10月29日(日)
 14:00~16:15
 会場: 富山県立総合文化センター 10号棟
 入場料: 500円
 講師: 中沢 洋三 (信州大)

157名(金沢市)

がん診療最前線
 12月16日(日)
 13:30~17:30
 会場: 福井県県民ホール(アオッサ8階)
 入場料: 300名

250名(福井市)

小児・AYA世代の
 がんを知る
 11月17日(日)
 14:00~16:00
 会場: 長野県立総合文化センター
 入場料: 200名

75名(長野市)

がんになっても自分らしい
 人生を過ごすために
 9月13日(日)
 13:00~16:30
 会場: ホール 金沢(グランドセントロ)
 入場料: 170名

170名(金沢市+WEB)

北信地域における
 がん診療の未来
 12月5日(日)
 13:30~16:00
 会場: 富山県立総合文化センター
 入場料: 130名

130名(富山市+WEB)

2021（令和3）年度 全国がんプロ教育合同フォーラム

【日 時】 令和4年1月27日（木）10時～16時（終了予定）
（午前の部 10：00～12：00・午後の部 13：00～16：00）

【開催方法】 CISCO Webex によるオンライン会議
ミーティング リンクから参加する
<https://osaka-u.webex.com/osaka-u/j.php?MTID=m90ef9268b1c6ce1b78d8572c54ab714>
ミーティング番号（アクセスコード）: 2514 914 0818
ミーティングパスワード: ganpro2021

【テ ー マ】 希少がんの人材育成
【総合同会】 北信がんプロ 矢野 聖二先生（金沢大学）

1. 10:00～10:10【開会のご挨拶】

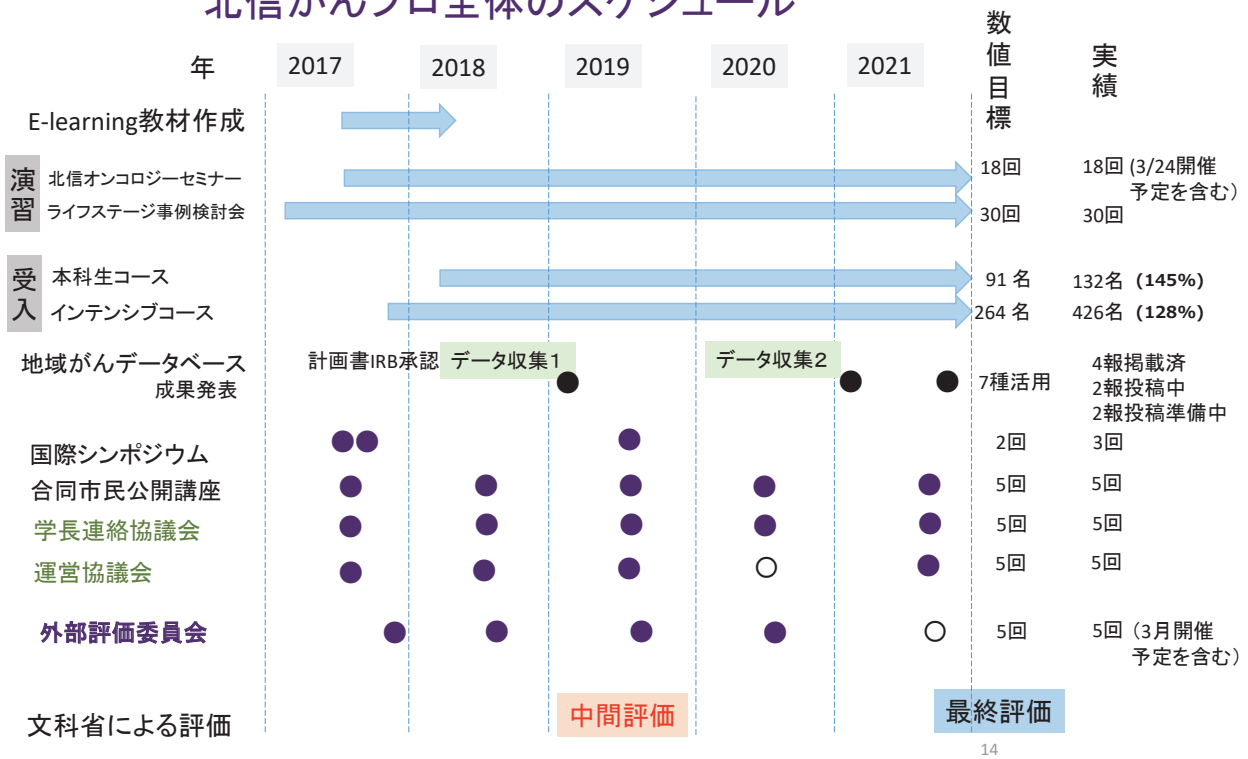
松浦 成昭 先生（全国がんプロ協議会会長）
伊藤 史恵 様（文部科学省高等教育局医学教育課 課長）

2. 10:10～12:00【各拠点の5年間のあゆみ】 11拠点代表者×10分

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 九州大学拠点 | 馬場 英司 先生 |
| 2. 岡山大学拠点 | 藤原 俊義 先生 |
| 3. 近畿大学拠点 | 中川 和彦 先生 |
| 4. 大阪大学拠点 | 小泉 雅彦 先生 |
| 5. 京都大学拠点 | 武藤 学 先生 |
| 6. 金沢大学拠点 | 矢野 聖二 先生 |
| 7. 東京医科歯科大学拠点 | 三宅 智 先生 |
| 8. 東京大学拠点 | 宮川 清 先生 |
| 9. 筑波大学拠点 | 小田 竜也 先生 |
| 10. 東北大学拠点 | 石岡 千加史先生 |
| 11. 札幌医科大学拠点 | 齋藤 豪 先生 |



北信がんプロ全体のスケジュール



まとめ

- 北信がんプロは、目標を上回る履修生を受け入れた。
(本科生コース 145%、インテンシブコース 128%)
- 北信がんプロは、当初計画をすべて実行した。

来年度(R4)は、文科省のがんプロ事業公募がされない

- R5年度事業としての公募時に応募する方針
- 履修生が全員卒業するために必要な講義や多職種カンファレンスを来年度以降も継続する。



広報活動

◆ホームページ公開

北信がんプロの紹介、患者・一般向け情報、教育コースの受講者募集・受講者向け情報、セミナーや市民公開講座の案内や活動報告を日々更新

URL <http://www.gan-pro.net/>

【ホームページアクセス状況】

- ・新規ユーザー数 10,972
- ・ページビュー 37,293
- ・ページ/セッション 2.43
(ページ閲覧数/訪問者数)

※2020.10.1～2021.9.30 のデータ

【ホームページ等更新状況】

- ・SNS (Facebook/Twitter) : 金沢大学
Facebook/25回 Twitter/26回
(2020.10.1～2021.09.30)

Homepage



Facebook



Twitter

※連携各大学が北信がんプロのホームページを開設し、随時情報を発信していますので、ぜひご覧ください。



新聞記事



令和3年12月掲載
【北國新聞】
『令和3年12月5日(日)
北信がんプロ 合同市民公開講座』



令和3年12月掲載
【富山新聞】
『令和3年12月5日(日)
北信がんプロ 合同市民公開講座』



北信三徳と長野県の6大学で取り組む、がん専門医療人材養成プラン「北信がんプロ」の合同市民公開講座は昨年12月、富山市の富山国際会議場で開かれました。5力年のプログラムが最終年度を迎え、6大学の専門家が登場するがん治療や研究の成果を紹介しました。

2021年度北信がんプロ合同市民公開講座

成果を未来へつなぐ

多様な人材を育てる
北信がんプロ5年間のあゆみ
矢野聖一氏(富山大学)が講演。がん治療の現場で活躍する専門医療人材の育成が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。がん専門医療人材の育成は、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

若い世代の検診重要
小泉 知展氏(富山大学)が講演。がん専門医療人材の育成が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

緩和ケアに理解深め
牧野 智恵氏(富山大学)が講演。がん専門医療人材の育成が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

学びを次代に継承
小谷 浩氏(富山大学)が講演。がん専門医療人材の育成が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

遺伝情報 調べて治療
林 龍二氏(富山大学)が講演。がん専門医療人材の育成が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

富山県のがんゲノム医療と北信がんプロ
指定病院の 拠点実現
富山県のがんゲノム医療と北信がんプロの連携が、がん対策の重要な柱の一つとして、北信がんプロが取り組んでいる。5年間の活動を通じて、がん専門医療人材の育成に貢献している。

令和4年1月掲載
【北國新聞】採録記事
『令和3年12月5日(日)
北信がんプロ 合同市民公開講座』
(富山大学)

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がん診療最前線

多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう

11月23日(火) 18時30分～20時30分 福井大学 金沢キャンパス 講堂

講演者：金子雅史(福井大学 産科婦人科学の高倉正博 准教授)、金子雅史(福井大学 産科婦人科学の高倉正博 准教授)、金子雅史(福井大学 産科婦人科学の高倉正博 准教授)...

講演テーマ：子宮頸がん、小児がん、乳がん、がん予防

入場料：無料

申込方法：福井大学 がん研 申込フォーム

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がん診療最前線

多くの世代にいろいろながんのことを知ってもらおう

11月23日(火) 18時30分～20時30分 福井大学 金沢キャンパス 講堂

講演者：金子雅史(福井大学 産科婦人科学の高倉正博 准教授)、金子雅史(福井大学 産科婦人科学の高倉正博 准教授)...

講演テーマ：子宮頸がん、小児がん、乳がん、がん予防

入場料：無料

申込方法：福井大学 がん研 申込フォーム

令和3年12月掲載
 【福井新聞】
 『令和3年11月23日(火)
 北信がんプロ 県民公開シンポジウム』
 (福井大学)

6日に医科大講座 女性のがん予防紹介 北信がんプロ金沢医科大

市民公開講座「がんを知り、がんに備える。」女性のがんの治療最前線(北國新聞社後援)は6日、金沢市のホテル金沢で開かれる。同大の医師が女性特有のがんの予防策などを紹介する。

乳腺・内分泌外科の井口雅史准教授が乳がん、産科婦人科学の高倉正博臨床教授が子宮頸がんや卵巣のがんをテーマに講演する。腫瘍内科の金子雅史准教授を加えてパネル討論も行う。

参加費無料。参加方法は会場かオンラインかを選択でき、11月2日までに申し込みが必要。問い合わせは同大教学課大学院医学研究科担当(076-218)8051まで。

北信がんプロ 県民公開シンポジウム

がんを知り、がんに備える。

—女性のがんの治療最前線—

1. 講演1 乳がんの最新治療
2. 講演2 子宮頸がんの最新治療
3. 講演3 小児がんの最新治療
4. パネル討論

2021年11月6日(日) 10時～12時

会場：金沢市ホテル金沢

入場料：無料

申込方法：福井大学 がん研 申込フォーム



北信がんプロ金沢医科大が講座
 市民公開講座「がんを知り、がんに備える。」(北國新聞社後援)は6日、金沢市のホテル金沢で開かれ、来場者約70人が女性特有のがんの予防法や最新治療に理解を深めた。

乳腺・内分泌外科の井口雅史准教授は、遺伝性の乳がんの場合、予防的乳房切除として昨年4月が最新のがん治療に理解を深める参加者。金沢市内のホテル

女性向けの治療に理解

北信がんプロ金沢医科大が講座

乳がん切除が保険適用になったと紹介した。産科婦人科学の高倉正博臨床教授は、子宮頸がんはワクチンで予防でき、子宮体がんは自覚症状で早期発見できると説明。卵巣がんには近年、がん細胞の増殖を抑制するPARP阻害薬が治療に取り入れられているとした。腫瘍内科学の安本和生教授も加わり、パネル討論した。

令和3年11月掲載【北國新聞】
 『令和3年11月6日(日)
 北信がんプロ 市民公開講座』
 (金沢医科大学) 開催案内

令和3年11月掲載
 【北國新聞 富山新聞】
 『令和3年11月6日(日)
 北信がんプロ 市民公開講座』
 (金沢医科大学)

第Ⅲ部 外部評価委員会

北信がんプロ外部評価の評価手順（令和3年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

- (1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、活動状況と評価、成果報告会・学長連絡協議会・運営協議会によるプレゼンテーション（動画）に基づき評価を行う。
- (2) 当該評価報告書は、本プログラム担当がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 令和4年3月18日（金）15時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月25日（金）15時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

【問い合わせ先】金沢大学 北信がんプロ事務局 担当 今村
TEL：076(265)2854 FAX：076(265)2855
mail：gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

北信がんプロ 外部評価委員名簿

	氏名	所属・職名
1	まつうら なりあき	大阪国際がんセンター総長
	松浦 成昭	全国がんプロ協議会会長
2	いしおか ちかし	東北大学腫瘍内科教授
	石岡 千加史	東北次世代がんプロ事業推進責任者
3	ましま よしゆき	患者会 NPO 法人
	眞島 善幸	パンキャンジャパン理事長
4	しぶや たけし	地元産業界 シブヤ EDI 代表取締役
	澁谷 武志	(澁谷工業グループ企業)

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 松浦 成昭 （自筆）

【評価結果】
<p><input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。</p>
<p>[実施状況に関するコメント]</p> <p>6大学がそれぞれ特徴を出しながら、お互いに連携協力して5年間、北信がんプロの多岐にわたる様々な事業を実践し、大きな成果を出したことを高く評価します。第2期がんプロで北陸拠点で文科省から低い評価を付けられましたが、その汚名をばん回する優れた成果を出して頂いたと思います。特に、各大学のすべての本科生コース、インテンシブコースいずれも養成目標を達成したことに対して、皆様のご努力に敬意を表します。履修生は様々な分野で多職種にわたっており、第3期がんプロのテーマであるゲノム医療等の高度がん医療人材養成、ライフステージに応じたがん対策を担う人材で、今後の活躍が楽しみと思います。また、教育内容の充実、多職種連携演習の活性化、海外研修の実施、市民向けの発信も十分に果たしていただきました。外部評価にも耳を傾けて適切に対応いただき、迅速に改善に努められたことにも感謝申し上げます。</p>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none">・各大学のすべての本科生コース、インテンシブコースで履修生の目標を達成して、多職種にわたる様々な分野の養成を達成した点。・第3期がんプロの新規のテーマに対する講義教材を充実させて、多数の学生が履修したこと・北信オンコロジーセミナーを18回開催し、のべ1856名が受講し、多職種連携演習を実りある形で実践したこと・ライフステージ事例検討会を40回と極めて多数開催し、3890名以上の参加者を得て、がん患者のそれぞれのライフステージに合わせた医療・看護について多職種で検討し、大きな教育効果を得たこと・コロナ禍のため最初の2年だけではあったが、スタッフの海外研修を行い、最先端の医療

を現地で学び、国際性の涵養に資したこと

- ・北信4県のがん拠点病院の院内がん登録を用いて、当該地域のがん医療の特徴を明らかにする検討を行ったこと

- ・市民向けの講演会を各大学単位および北信がんプロとして合同で行い、多くの医療情報を市民に啓発したこと

- ・最終年度に全国がんプロ教育合同フォーラムを主催し、全国レベルで第3期がんプロの教育について、成果と今後の問題点を明らかにしたこと

- ・第3期がんプロ事業が綿密なスケジュール管理の元実践され、運営協議会などを通じて常に情報共有を行い、意見交換しながら運営したこと

- ・ホームページでがんプロ事業の内容と成果を広く広報に務めたこと

(改善を要する点)

第3期がんプロ事業に関して改善を要する点はありません。

がんプロは15年間実施されてきて、多くの修了生を出しているため、今後、修了生のフォローについても取り組んでいただければと思います(石川県立大学のような取り組み)。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 石岡千加史

石岡千加史（自筆）

【評価結果】高く評価出来る

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

プラン採択時の目標に沿って事業が実施されており、第3期がん対策推進基本計画のがん医療の充実に関わるがん医療人養成に成果があり、今後、地域のがん医療の推進や均てん化に貢献できる事業成果がえられた高く評価出来る。

（優れた点）

養成数や受講者数のアウトカムを明示し、定期的に外部評価を行った点。受講者のアンケート調査を実施して事業評価の参考にした点。各大学の特徴を生かし、先端がんゲノム医療、小児・AYA 世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の教育システムで養成を進めた点。

（改善を要する点）

地域がん医療に貢献するがん医療従事者の資格取得状況（例えば、専門医、専門・認定看護師や薬剤師、認定遺伝カウンセラーなどの人口100万人当たりの地域医の養成数）について、プラン実施前後との比較や、各県およびプラン参加県平均と全国平均との比較で分析し、地域格差、職種間格差の問題がないか検討してほしい（事後にも分析、評価は可能だと考えます）。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島喜幸 (自筆)

【評価結果】
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] 総括 ・令和2年度、令和3年度は従来とは異なり、大学病院や関連施設などがコロナ感染症による深刻な影響を受けたことから、一部のがんプロ事業に支障がでたことは否めない。しかし、全体的には参加校間と地域連携のIT化が進み、コロナパンデミックに負けることなく、活発ながんプロ教育事業が進められたことは高く評価できる。 ・本事業を通して金沢大学を主幹として北信地域の6大学が連携協力しながらゲノム医療含むがん教育コース（本科10、インテンシブ9）を開発し、医師、看護師、薬剤師など多職種を対象とした教育を進め、当初の目標値を超える実績を積み上げ、高度がん医療を先導する医療人を多数輩出したことは高く評価できる。 ・免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例を集めた北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文作成に利用するとともに地域がん対策にも活用し、その成果を地域社会に還元していることは高く評価できる。 ・メディカルサイエンスの最新技術と知識に関する教育プログラムを継続的に開発し、ゲノム医療や希少がん、小児・AYAがん、難治性がんなどを含むがん患者のライフステージにあわせたがん医療、がん研究などに対応できる医療人の育成を継続し、がん患者の予後、QOLを高め、積極的に地域社会に貢献している点は高く評価できる。
(優れた点) ・本科生コース、インテンシブコース：この5年間を通して、6大学連携の北信がんプロの事業は順調に進んできており、設定された目標以上の多数の履修者を輩出したことは高く評価できる。また、資格取得者数も目標値を超えたことは高く評価できる。

- ・FD研修：国内外の学会、イベント関係ではコロナの影響から海外の学会参加は不可能な状況が続いているが、早々にオンライン参加に切替えて対応している点は評価したい。
- ・地域社会への還元：がんプロ事業は、地域社会のニーズにマッチした重要な活動なので、指摘されているように、北信地区全体で協力しあい、地域社会への還元を継続していただきたい。
- ・地域社会の課題である急激に進む少子高齢化に対して、北信がんプロ事業参加校が妊孕性温存ネットワークを立ち上げるなど、ゲノム医療以外のさまざまな課題に取り組む姿勢は高く評価できる。
- ・非常に強い参加施設間の連携をベースとした、レベルの高い「がんプロ事業」を実施している点は高く評価したい。

施設別評価：

1. 信州大学

本科生コースでは、ゲノム医療に精通したがん治療医育成のための博士課程を実施し、12名が参加。修士課程ではがん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コースを実施し9名が参加した。インテンシブコースでは、看護師が履修し、9名が修了済。がんプロコースでは目標数を実績が超えている点を高く評価したい。また、E-learning教材を合計29コマ作成したことは高く評価したい。

- ・北信がんプロのオンコロジーセミナーを企画し、3回開催したことは評価したい。
- ・北信DBの解析・研究として小児・AYA世代と肺がんに関する研究を行い論文投稿した点は評価したい。
- ・海外FD研究にも参加したことは評価できる。
- ・人材交流の積極的に行い、NGSDプロジェクトとして、ゲノム医療を推進する次世代スーパードクターの育成をすすめ、28名の医師を参加させたことは評価したい。
- ・合同市民公開講座を開催し、がんプロ所属学生の成果・体験発表会も開催し、大学院生の交流を図ったことは評価したい。
- ・信州大学独自の取り組みとしてがんゲノム医療の推進と妊孕性温存ネットワークの構築があげられる。妊孕性ネットワークは、長野県内の4医療県内で9つの施設を繋いで病診連携体制を構築したことは評価できる。

2. 富山大学

- ・本科生コースでは、「高齢がん患者対策」に30名の医師が参加した（30名/16名）ことは高く評価したい。「個別化医療薬剤師」には、3名の薬剤士が参加（3名/4名）。
- ・インテンシブコースでは、「高齢がん患者対策」に医師10名が参加した（10名/10名）ことは評価したい。また、「個別化医療薬剤師」には、12名の薬剤士が参加（12名/9名）、「在宅緩和リハ」には看護師11名が参加（11名/7名）、1名が修了しがんプロ認定エキスパート看護師に認定されたことは高く評価したい。
- ・北信がんプロオンコロジーセミナー・合同市民公開講座、薬学系講演会、市民公開講座などを開催した。
- ・がんゲノム医療拠点病院としての実績を積み上げ、さらに2020年6月、富山県内初となる「総合がんセンター」を開設したことは評価できる。
- ・全国がんプロ協議会ゲノム医療部会にて成果発表した。また、ライフステージ事例検討会にも成果発表した。

3. 福井大学

- ・本科生コースでは、「地域がん専門医」に21名の医師が参加した（21名/8名）ことは高く評価したい。
- ・インテンシブコースでは、「在宅栄養管理」に多職種94名が参加（94名/78名）、「在宅緩和医療」には、109名の多職種医療者が参加（109名/96名）したことは高く評価したい。
- ・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催した。
- ・E-learning教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する9テーマの教材を作成したことは評価したい。
- ・地域医療者向けのスキルアップセミナーを開催し、がんゲノム医療、ACP、アピアランスケア、家族ケア、妊孕性温存、がんロコモ、がんリハビリ、腹水管理・CARTなどのトピックが含まれた。
- ・市民公開シンポジウム「がん診療最前線」を開催した。講演テーマには、胃癌・大腸癌・肺癌・乳癌・膵癌、がんゲノム医療、ロボット手術、先進医療、小児がん頭頸部がん、骨転移、妊孕性温存、ACP、栄養サポート、子宮頸がんワクチン、新型コロナなどが含まれた。これら

の講演はオンデマンド配信中であることは評価したい。このような市民公開講座は貴重であることから、継続して地域社会にプロモートし配信していただきたい。

・「がん診療最前線」というタイトルで最新がん医療に関する 50 ページの冊子を作成し県内の医療機関に無料配布したことは評価したい。

・福井県の小学校から高校までがん教育のための出張授業を行い貢献したことは評価したい。

・福井県がん患者生殖医療ネットワークの立ち上げに参加し不妊治療の中核施設となる。

・福井大学では、地域全体、医療人全体のレベルアップを図ることで、先進的がん医療人の育成をすすめている点は評価したい。

4. 金沢医科大学

・本科生コースでは、「地域がん専門医」に 21 名の医師が参加した（21 名/8 名）は高く評価したい。

・インテンシブコースでは、「在宅栄養管理」に多職種 94 名が参加（94 名/78 名）、「在宅緩和医療」には、109 名の多職種医療者が参加した（109 名/96 名）ことは高く評価したい。

・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催。特に新しい領域であるがんゲノム医療や免疫チェックポイント阻害薬などを取り上げた講座は評価したい。

・E-learning 教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する 9 テーマの教材を作成した点は評価したい。

5. 石川県立看護大学

・第 3 期がん対策推進基本計画で取り上げられた「がん予防」、「がんと診断されたときからの緩和ケア」、「ライフステージに応じたがん対策」に対する対応策を進め、さらに基盤整備の一環として人材育成とがん教育・普及啓発にも取り組んだ点は評価できる。

・特に医療人教育に関しては、2018 年「メルボルン 緩和ケア視察研究」と「医療者・患者への抗がん剤曝露露予防」に取り組んだ点は評価したい。

・2019 年は、公開講座などを開催し医療関係者等の連携協力の更なる強化に取り組んだ。さらに 2020 年には合同市民公開講座として、ACP に取り組んだ。2021 年には AYA 世代のがん体験から支援について考え取り組んだ。また、コロナ禍でのがんサロン活動についても取り上げた。2022 年は WEB 研修で英国緩和ケアについて学んだ。

- ・本科生コースでは、「がんライフステージコース」に7名の看護師が参加した（7名/8名）。
- ・インテンシブコースでは、「がんライフケアコース」に34名の多職種が参加した（34名/22名）ことは高く評価したい。
- ・ライフステージ事例検討会は、2020年度からコロナの影響により、会場とオンライン開催のハイブリッド形式にて実施されるようになり、参加者数が大幅に増加し、過去最高となり、1000名を超えるようになった。また、看護師、医師を含め多職種の参加も増えた。特に2019年に参加した医師数は52名であったのに対し、2020年は235名と約4倍強となった。2017年から2021年までの参加者数は、合計2,366名となったことは高く評価したい。
- ・がん看護事例検討会も2020年よりハイブリッド形式での開催となり、2017年の36名から2021年は過去最高の40名となった点は高く評価したい。
- ・リンパ浮腫ケアの基礎編とアドバンス編についても2020年よりハイブリッド形式となり、多数の医療者が参加した。2017年には基礎編+アドバンス編の参加者は77名であったが、2020年には88名の参加となった点は評価したい。

6. 金沢大学

- ・本科生コースでは、「先進的個別化医療」に26名の医師が参加した（26名/20名）は評価したい。「個別化薬物療法・薬剤師リーダー」には6名の薬剤士が参加（6名/7名）。「高度化医学物理士」には、8名の医学部物理士が参加した。（8名/8名） 目標35名のところ合計40名が参加し、目標値の114% を達成できたことは高く評価できる。
- ・インテンシブコースでは、「がんゲノム障害教育」に医師39名が参加した（39名/26名）ことは高く評価できる。「個別化薬物実践薬剤師」には、12名の薬剤士が参加し（12名/12名）、「がんゲノム多職種連携入門」には、67名の多職種が参加した。（67名/40名） 目標78名のところ118名が参加し、151%を達成できたことは高く評価したい。
- ・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催した。
- ・E-learning教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する9テーマの教材を作成した点は評価したい。
- ・海外FD研修会は2018年に米国ワシントンDCにある国立ヒトゲノム研究所（NHGRI）と国立がん研究所（NCI）を視察した。
- ・がん拠点病院と連携したスタッフ研修会を開催し、合計14回、972名が参加した点は評価

したい。

- ・2018年に国際エキスパートセミナーを2回開催し、77名が参加した。
- ・市民公開講座を6回開催し、611名が参加したことは評価したい。
- ・北信がんプロの連携を活用し石川県における妊孕性温存ネットワークを立ち上げた。

(改善を要する点)

・「患者中心の医療」を実現するためには、がんと告知された患者と家族には急速に進化するゲノム医療を理解すること、特にがんゲノム医療の入口であるコンパニオン診断、がん遺伝子パネル検査さらにリキッドバイオプシーを理解すること、さらに出口である遺伝子変異にマッチした治療法、適応外薬を使用した患者申出療養制度、医師主導型治験などを理解することが必要なので、それらをやさしく紹介する市民公開講座などを定期的に開催し、地域社会に向けて継続的にオンデマンド配信してほしい。

・患者・市民向けのダビンチ・ロボット手術や腹腔鏡手術などの低浸潤外科治療、PRRTなどの核医学治療、適応拡大される粒子線治療など、次々に登場する新しい治療法の紹介もオンデマンド配信してほしい。

・近年、患者・市民参画 (Patient and Public Involvement: PPI) の重要性が指摘されていることから、本事業の役割についてさらなる社会の理解を深めるために、患者・市民との積極的な対話の機会を市民公開講座のパネルディスカッションなどを利用して開催してほしい。

・北信がんプロ事業に参加する医療関係者のみならず、市民公開講座の参加者、地域社会に対するアンケート調査なども定期的に行い、北信がんプロ事業の社会還元についての評価結果を事業関係者と共有し、可視化を図り、改善に向けたPDCAサイクルを回してほしい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 北谷 武志

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] ・北信がんプロは本科生コース、インテンシブコース共に目標を上回る履修生を受け入れ、北信がんプロが当初計画した事業のすべて実行したことは大いに評価できます。 ・コロナ禍の厳しい状況下にもかかわらず、Web会議やテレビ会議システム等を活用し、e-learning、各種研修会、セミナー、事例検討会、市民講座などを積極的に開催したことに敬意を評します。
(優れた点) ・北信がんプロの活動に参加している6大学が、それぞれの強みや特徴を生かしたテーマを分担する形で相互補完的にがん医療人材の育成に積極的に取り組んだことは、評価できます。 ・28もの多くのがん診療連携拠点病院が参加して登録データをデータベース化し、がん対策に活用していることは有益なことだと思います。
(改善を要する点) ・がんの早期発見、早期治療により、早期に職場や社会に復帰することが出来、健康寿命を延ばすことが出来ることなどから、がんの予防・検診の重要性を市民講座や北信がんプロのホームページ、マスメディア(新聞、TV)等を通じてもっと啓蒙・普及していただきたい。 ・今後も北信がんプロの先進的な事業の取り組みを継続していただきたいと思います。

外部評価結果（総括）

外部評価委員： 松浦 成昭 （自筆）

【評価結果】
<input type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] <p>6大学が、5年間にわたり、北信がんプロとして連携・協力体制を取って、がんプロ事業を実施し、目標を上回る養成者を得て、質の高い教育を実践されたことを高く評価します。どのコースも第3期がんプロの掲げていた医療人の養成であり、今後の北信地域のがん医療の向上や均てん化への貢献が期待できます。第3期の後半の期間はコロナ禍に見舞われましたが、がんプロ教育の質や量を落とすことなく、適切に対応して、事業を継続したことも評価に値します。</p> <p>文科省からの補助事業はこれで終了となりますが、在学中の大学院の教育はもちろん、地域のがん拠点病院のスタッフや市民に対する教育・啓発活動も引き続き、継続して取り組んで頂き、地域がん医療の向上に尽力して頂くことを期待します。</p>
(優れた点) <ul style="list-style-type: none">・各大学の本科生コース、インテンシブコースのすべてのコースで養成目標を達成した点・各大学の特徴をいかし、先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん医療、ライフステージに応じたがん対策を担う人材の養成を積極的に進めたこと・綿密なスケジュール管理をしながら、養成者・受講者などのアウトカムを明示し、各大学が連携した形で事業を実施し、定期的に外部評価を行い、必要な点を改善しながら進めたこと・コロナ禍にも迅速・適切に対応し、がんプロ教育の質を落とさずに継続したこと
(改善を要する点) <p>第3期がんプロ事業として改善を要する点は見られませんが、今後の課題となることや検討いただきたいことを記します。</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も引き続き、ゲノム医療について、リキッドバイオプシーや遺伝子パネル検査の出口

となる臨床研究などについても市民向けの講演会を実施し、継続的に配信していただきたい。
また、ロボット手術、粒子線治療などの新しい治療についても市民教育に務めていただきたい。

・患者・市民参画（Patient and Public Involvement）の観点から、積極的に患者・市民との対話に務めていただきたい。

・がん医療スタッフの資格取得状況について、経時的な変化や各県および全国との比較で分析し、地域格差・職種間格差を検討して頂きたい。

・修了生のフォローを行い、新たな教育に活用していただきたい。